

## 和仏法律学校講義録

勝本, 勘三郎 / 古賀, 廉造 / 副島, 義一 / 秋山, 雅之介

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-17

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1899-10-15

五月

# 法律學雜誌

## 講義

### 第壹卷



每月貳回 目次

國際公法 (自二五至七五) 法學士秋山雅之介  
表紙及目次 (二七六外十)

刑法總論 (自二六一至二六六) 法學士古賀廉造

憲法 (自三三〇至三三三) 法學士副島義一

第拾七號 刑法各論 (自三八五至三八八) 法學士勝本勘三郎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

090  
1899  
3-1-17

ハ大統領ニ屬シ大統領ハ全權委員ヲ撰定シテ如何ナル條約ヲモ締結シ得ヘキ  
モ其批准ハ上院議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ大統領ノ之ヲ爲スヘキモノナ  
ルカ如ク斯ル場合ニ於テハ其國ノ一機關ニテ條約ヲ締結スルモ批准ヲ與フル  
ノ權ハ更ニ別種ノ機關ニ在リテ兩機關ハ互ニ其行爲ヲ拘束スル能ハサルニ因  
リ締結シタル條約ニ批准ヲ與フルト否トハ批准ノ權ヲ有スル機關ノ任意ニ在  
ルコトナレハ國家ハ一旦締結シタル條約ニ付キ必スシモ批准ヲ與フルノ義務  
ヲ有スルモノニ非ラス隨テ米國ニ於テハ大統領ノ締結シタル條約ヲ上院ニ於  
テ批准ヲ拒ミタルコト少ナカラスシテ千八百八十五年「ニカラガ」國ト「ニカラ  
ガ」運河ノ條約ニ對シ上院ハ批准ヲ爲サス千八百八十八年英米兩國通漁條約ノ  
批准ヲ拒絕シ千八百九十七年兩國仲裁々判ノ條約ヲ批准セザリシハ其實例ニ  
シテ對手國モ條約締結ノ當時ヨリシテ米國憲法上大統領ハ上院ノ批准ニ同意  
ヲ強制スル能ハサルコトヲ知リ居ルヲ以テ批准ノ拒絕ニ付キ之ヲ咎ムル能  
ハサルモノトス

トキハ一旦締結ニ係ル條約ニ批准ヲ爲ササルニハ相當ノ理由ヲ必要トス例ハ全權委員カ其權限ヲ超ヘテ締結シタルトキハ或ハ締結ノ際詐欺ノ行ハレタルトキ或ハ締結ノ當時ト批准ヲ與フル時ノ間ニ於テ事情全ク一變シ之ヲ批准シ履行スル能ハサルカ又ハ困難ニ至リタルトキノ如キハ其批准ヲ拒ミ得ヘキハ論ナキモ故ナクシテ之ヲ拒ム能ハス尤モ現今ノ實例ニ於テハ此道理ニ一歩ヲ進メ締結ト批准ノ間ニ時日ヲ存シ置ク所以ハ國家カ締結シタル條約ノ利害關係ヲ熟考スル爲ニストノ道理行ハレ隨テ故ナキ變心ニ起因セルニアラスシテ少クモ批准ヲ拒ムノ道理ノ存スル以上ハ其拒絕ヲ爲シ得ヘキモノトス故ニ千八百四十一年和蘭國ハルキセンブルク國トノ條約ヲ批准セサル理由トシテ條約締結後ニ於テ其條約ハ同國民ノ商業ヲ害スルニ至ルヘキヲ發見シタルニトヲ以テシ千八百八十三年英國ハコンゴ―河口ニ關シテ葡國トノ條約規定ハ商民其他ニ満足ヲ與フヘキモノニアラス又其事項ハ列國會議ニテ決定セララルヘキモノナリトノ理由ニ依リ其批准ヲ拒ミタル如キハ之カ實例タリ

第五項 條約ノ効力及ヒ解釋

條約ノ批准アルヤ否ヤ其規定ヲ實行スヘキ國際公法上ノ義務ヲ締盟國ハ負擔スルモノナリ條約ハ普通公布シテ國民ニ知得セシムルヲ常トスト雖モ公布ト否トハ其効力ヲ生スルニ必要ナル條件ニアラスシテ秘密條約ノ如キハ公布セザレトモ等シク批准ト共ニ國家ヲ拘束スルモノトス隨テ國家ハ之ヲ實行セントスルニ當リ議會ノ協贊ヲ得ヘキ法律ヲ必要トスル場合ニ於テ其協贊ナキ爲メ實行シ能ハサル場合ニ於テモ國家ハ之カ爲ニ信用ヲ破リ破約ノ責任ヲ免ルルコト能ハス又條約ノ拘束力ハ單ニ締盟國ノミヲ拘束スルニ止マリ第三國ハ其規定ノ爲メ利益ヲ受クヘキコトアル場合ニ於テモ其條約ニ依リ何タル權利義務ヲ有スルモノニアラスシテ數國間ニ於テ條約ヲ締結シ其規定ハ國際公法トシテ諸國ノ遵守スヘキコトヲ約定スル場合ニ於テモ締盟國間ニ於テノミ國際公法トシテ之ヲ看做スヘキ効力ヲ有スルニ止マリ締盟國以外ノ諸國ハ決シテ其義務ヲ有スルコトナク國際公法自體モ斯ル條約ノ爲メ何タル影響ヲ蒙ルコトナクシテ其規定ヲ諸國一般ニ認ムルニ至リ初テ國際公法ノ効力ヲ有スルニ過キス



條約ノ効力上ニ關シテ締結國ハ其履行ヲ確實ナラシムル爲メ之カ擔保トシテ  
 中世ニ於テハ人質ヲ取リ置ク慣例アリタルコトナルカ近世ニ於テハ斯ル慣例  
 ハ廢止セラレ單ニ自國ノ利害關係上之ヲ履行スヘキ國際公法上ニ於ケル義務  
 ノ觀念ヨリシテ其履行ヲ諸國ノ努ムルニ至レリ然レトモ履行ノ擔保トシテ領  
 土占領若クハ第三國ノ保證ハ今日ニ於テモ行ハルヤコトニテ馬關條約履行ノ  
 擔保トシテ明治三十一年四月マテ我軍隊ノ威海衛ヲ占領シタルハ領土占領ノ  
 一例ニシテ明治二十九年清國ノ公債募集ニ對シテ露國ノ保證ヲ與ヘタルハ第  
 三國保證ノ實例タリ而シテ條約擔保トシテ領土占領ノ場合ニ於テハ若シ不履  
 行アルトキ直チニ其領土ノ主權ヲ占領國ノ取得スヘキヤ否ヤハ議論ノ存スル  
 所ナレトモ其事情ニ從ヒ條約ノ規定ニ依リ各場合ニ於テ之ヲ判定スルノ外ナ  
 ク又第三國ノ保證ニ付テモ義務國ノ條約ヲ履行セサルトキハ直ニ保證國ハ其  
 義務ヲ負擔スヘキヤ否ヤモ擔保ノ程度ニ因ルヘキモノニシテ普通第三國ノ擔  
 保ハ斯ル場合ニ於テハ自ラ其義務ヲ負擔スルニアラスシテ義務國ヲシテ之ヲ  
 履行セシムルニ盡力スヘキ責任ヲ負フニ過キサルモノトス

條約ノ規定ヲ解釋スルニ付キ古來學者ハ種々ノ規則ヲ唱道シタルコトナレト  
 モ締盟國間ニ於テ其解釋ノ意見ヲ異ニスルトキハ之カ判定ヲ爲スル機關ナキ  
 ニ因リ解釋ノ方法ニ付キテ一定ノ原則ヲ國際公法ニ特別ニ設クルノ必要ナク  
 總テ條約ハ其規定ノ意義ヲ一般學理的ニ解釋スルノ外ナシ換言セバ普通ノ用  
 語ハ其普通ノ意義ニ因リテ解釋シ特種ナル科學的ノ用語ハ其特種ノ意義ニ解  
 シ疑アル文章字句ハ條約全般ノ意義ニ抵觸セサルヘキ解釋ヲ之ニ下スヘタ又  
 當事者間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ當事者ノ協議ニ因リテ之ヲ決定スルノ外ナキ  
 モノタリ

**第六項 條約ノ消滅及ヒ更新**

條約ノ消滅ニ付テハ當然無効ト爲ル場合アリ或ハ當事者一方ニ於テ無効ト爲  
 シ得ヘキコトアリ其他條約ノ規定ハ締盟國間ニ一時履行スルコト能ハサルニ  
 至ルトキハ中止ト爲リ其事情ノ去ルニ於テ効力ヲ回復スルモノアリ又一旦無  
 効ト爲リタル條約ニシテ締盟國ノ明示若クハ默示ノ承諾ニ因リテ其効力ヲ更  
 新スルコトアリ今斯ル場合ヲ大別セバ

第一 條約ノ無効ト爲ル場合

- (甲) 一定ノ年月ヲ限リ條約ノ有効期限ヲ定メタルトキハ其時日經過ニ因リ當然消滅ス又一定ノ行爲ヲ約定シタル場合ニ於テ之ヲ爲シ終リタルトキ例ヘハ損害賠償ノ條約ノ如キハ其賠償ヲ爲スヤ否ヤ直チニ解除ト爲ルコト明カナリ然レトモ國境ノ取極メ又ハ新立國ニ對シテ獨立ノ承認ノ如キハ其取極メ又ハ承認ヲ終ハルニ於テ條約ノ目的ハ達シタルモノナレトモ其規定ハ性質上永遠的ノモノナルニ因リ其効力ハ永ク繼續シテ締盟國間ニ存續スヘキモノナリ
- (乙) 條約國力在來ノ條約ト兩立スヘカラサル新條約ヲ結ヒタル如キ暗黙ニテ舊條約ノ廢棄ヲ爲スカ又ハ明カニ在來ノ條約ヲ無効トスルノ意思ヲ表示シタルトキ
- (丙) 條約中ニ解除條件ヲ規定シタルトキハ其條件ノ成就ト共ニ無効ト爲ルモノナリ
- (丁) 條約國ノ一方又ハ双方ニ於テ其規定ヲ履行スヘカラサルニ至リタルトキ例ヘハ條約國ノ一方亡滅スルカ又ハ條約中ニ於テ明示若クハ默示ニテ其條約締

結ノ基礎ト爲リ居ル事實ニ變更ヲ生シタルカ爲メ其履行ヲ爲シ能ハサルニ至レルカ如シ

(戊) 國際公法ノ法則又ハ列國間ノ德義ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ條約ノ規定カ國際公法ニ違犯ト爲ルトキハ消滅スヘキモノナリ

第二 條約ヲ無効ト爲シ得ヘキ場合

- (甲) 條約ニ於テ權利ヲ有スル國家カ其任意ニテ條約上ノ權利ヲ拋棄スルトキ
- (乙) 條約ノ性質上永續的ノモノニアラスシテ締盟國一方ノ意思ヲ以テ何時ニテモ無効ト爲シ得ヘキ場合ニ於テハ其締結國一方ニテ無効ト爲シ得ヘキコト明カナリ
- (丙) 締盟國一方カ條約ノ履行ヲ怠リ又ハ之ヲ爲サ、ルニ於テ其不履行ハ條約ト主要ナル部分ト爲リ居ルトキハ他ノ一方ハ之ヲ理由トシテ條約ヲ無効ト爲シ得ヘキモノトス固ヨリ條約中ノ規定ニ付テハ其條約ノ成立ニ關スル主要ノ部分ト然ラサルモノトアリテ若シ重要ナラサル部分ノ不履行アルトキハ其賠償ヲ求ムルノ外ナク條約全體ヲ無効トスルコト能ハサレトモ其不履行ニシテ

重要ナル部分ナルニ於テハ對手國ハ獨リ條約ヲ遵守スヘキ義務ヲ有セサルニ因リ自ラ其無効ヲ主張シ得ヘキモノタリ

(丁) 條約ノ履行ハ自國ノ成立ト兩立セサルトキ凡テ條約繼續ノ必要條件トシ損其規定ノ自國存續ニ反セサルヲ要スルニ因リ之ニ反スルトキハ履行ノ義務ナシ固ヨリ國家ハ自ラ獨立權ノ一部ヲ他國ニ委棄スルノ條約ヲモ爲シ得ヘシト雖モ此場合ハ特別ニ明示ノ約定アルコトヲ必要トシ條約締結ニ際シテ豫メ明約セサルニ非サレハ其規定ノ國家ノ生存ヲ害シ獨立ト兩立セサルニ至ルヤ否ヤ無効ト爲レ得ヘキモノトス

以上ハ條約ノ消滅ト爲ル場合ノ大要ナレトモ條約ノ種類ニ因リテハ戰爭ニ因リ全然消滅スルモノアリ戰爭中ニ其効力ヲ維持スルモノアリ又戰爭中其實行ヲ中止スルモノアリテ其詳細ハ戰時國際公法ニ述フヘキモノナレトモ要スルニ其條約ノ性質上平和ノ繼續間ヲ限リテ締結ニ係ルモノハ戰爭ニ因リ消滅シ永久ノ規定ニ係ルモノハ戰爭中其實行ヲ爲スヘカラサルモノニ限り中止ト爲リ戰爭行為ニ關スル條約ハ戰爭中ニ於テ實行ヲ見ルヘキモノタリ又茲ニ注

意ヲ要スルハ千八百七十一年倫敦會議ニ於テ歐洲大國ハ黑海事件ニ付キ條約ヲ締結シ總テ條約ノ規定ハ平和ノ協議ニ基キ締ノ盟國承諾ヲ得ルニ非サレハ其義務ヲ免カレ又ハ其規定ノ變更ヲ爲スコト能ハサルヲ國際公法ノ原則トストノ規定ヲ設ク其理由トスル所ハ凡テ私人間ノ契約モ當事者一方ノ意思ヲ以テハ其義務ヲ免カレ又ハ之ヲ變更スルコト能ハサルニ因リ況シテ國家間ノ條約ナル嚴正ノ方式ヲ以テ約定シタルモノハ對手國ノ承諾ナクシテ猥リニ其義務ヲ免カレ又ハ其規定ヲ變更スルコト能ハスト云フニアリ此法則タル固ヨリ適當ノ規定ナレトモ今日此原則ヲ絕對的ニ適用スルコト能ハサルモノトス何トナレハ若シ之ヲ正當ナリトセンカ一旦條約ヲ以テ規定シタル事項ノ變更若クハ廢止ハ必要ナル場合ニ於テモ締盟國ノ一國タリトモ之ニ承諾ヲ爲サハルトキハ到底其不當ノ條約ヲモ墨守スヘキ結果ヲ來スヘク隨テ千八百六十年伊太利諸州ノ合同モ擧國ノ反對ノ爲メ成立スルコト能ハストスヘキ無稽ノ論結ヲ來スヘク又千八百六十六年乃至千八百七十一年獨逸帝國ノ合同モ小國ノ反對ノ爲メ成立スル能ハスト云ハサルヲ得ス故ニ倫敦條約ノ規定ハ締盟國以外

ニ於テ國際公法ノ原則ト看做スコト能ハス隨テ國際公法ノ原則トシテハ今日此規定ヲ解シテ國家ハ觀リニ些細ナル口實ヲ以テ條約上ノ義務ヲ免カレ其變更ヲ主張スルコト能ハスト云フニ止マルモノトス時ニ締盟國ヲ拘束セサルモノナレトモ當事者ノ意思ニ因リテハ其消滅セタル條約ヲ更新ニ付キ一言セシニ總テ條約ノ解除ト爲リ無効ト爲ルトキハ之ト同時ニ締盟國ヲ拘束セサルモノナレトモ當事者ノ意思ニ因リテハ其消滅セタル條約ヲ存續セシムルコトアリ斯ク條約ノ効力ヲ更新スルニハ明示又ハ默示ニテ其更新ニ關スル合意アルヲ必要トス而シテ其効力ノ明示ノ認定トハ當事者間ニ舊條約ノ規定ヲ遵守スヘキ合意ニシテ條約ノ効力回復ト云ハシヨリモ事口新條約締結ト看ルヘキモノナレトモ締盟國双方ノ條約消滅後依然其規定ヲ履行スルカ如ク暗黙ニ其効力ヲ認メ居ル場合ニ於テハ締盟國ハ其消滅ヲ理由トシテ實行ニ伴フ義務ヲ免カル、コト能ハス例ハ通商條約ニ於テ有効期限經過ノ後締盟國ハ輸出入ノ物品ニ付キ條約上ノ稅則ヲ適用スルカ如キハ條約更新ニ關スル默示ノ認定ナルカ如ク尤モ斯ク認定ト爲シ得ヘキ場合ハ過失錯誤等ニ基クニ非スシテ其行爲ハ更新ノ認定タルコト事實上疑ナキ場合ニ限ルコトハ自カラ明白ナリ

### 第三編 國際爭議

#### 第一章 總則

國家間ノ交通々商上ニ於テ各國ハ利害關係ヲ異ニシ各利益ヲ擴張シ自國ノ幸福ヲ計ルニ因リ國際關係上或ハ他國ノ權利ヲ侵犯シ其利益ヲ害シ其他百般ノ事情ヨリシテ國際爭議ヲ生スルハ免カルヘカラサルコトニシテ其曲直ニ付テハ國際公法上審理裁斷スルノ機關ナク單ニ當事者間ニ於テ之ヲ終局スルノ方法ヲ講スルノ外ナキニ因リ其爭議ノ平和ニ終局スルニ非サレハ戰爭ト爲ルノ外ナシ然レトモ戰爭ハ國際爭議ヲ決スルノ最後ノ手段ニシテ國家ハ他國ノ爲メ其權利ヲ破壞セラレ不正ノ損害ヲ蒙ルモ直チニ戰爭ニ訴フルコト能ハスシテ先ツ可成平和的ニ其賠償救済ヲ求メ爭議ヲ事ナク終局スルノ手段ヲ講スヘキ責任ヲ有スルモノタリ而シテ平和的ニ爭議ヲ終局スル手段ニ付テハ之ヲ左ノ二章ニ分テテ説明スヘシ

## 第二章 平和手段

國際爭議ヲ平和ニ終局セントスルニ付キ國家ノ執リ行フヘキ手段ニハ平和的ノモノト強制的ノモノトノ二種アリ其平和的手段トハ左ノ數個ノモノ是ナリ  
第一 直接談判

國家ハ其爭議ヲ有スル對手國ニ對シ口頭又ハ書翰ヲ以テ互ニ自國ノ主張ヲ辨明シ其結果双方ノ意思氷解シテ爭議ノ終了スルコトアリ又談判中當事者一方ハ爭議ノ原因ト爲リ居ル自國ノ主張ヲ拋棄シテ爭議ヲ終了スルコトアリ就中自國ノ主張ヲ拋棄スル場合ニ於テモ其主張ヲ不正當トスルニ非スシテ政略其他ノ事情ヨリシテ其爭議ノミニ限り自國ノ權利ト認ムルモノヲ單純ニ廢棄スルモノト自國ノ正當ナルヲ主張スルニ拘ラス現在ノ問題ニ限りテ其權利ヲ拋棄スルコトヲ明言スルコトナキニ非ス其他國家間談判ノ進行中双方ニ於テ其主張ニ付キ互ニ讓歩ヲ爲シ其事件ニ付キ新ナル協定ヲ作リテ在來ノ爭議ヲ終局スルコトアリ

## 第二 調停

調停トハ爭議ニ關係ナキ第三國カ爭議國双方ノ承諾ヲ得テ其爭議ノ平和ニ終局スルコトヲ圖ルモノニシテ第三國ハ其承諾ヲ得ルニ非サレハ容喙スルコト能ハス最モ友誼國ノ好意ニ因リ他國ノ爭議ヲ終了セシムルコトニ自ラ進ンテ斡旋ヲ試ムルハ容ムルコト能ハスシテ爭議國モ其厚誼ヲ不法ニ謝絶スルコト能ハサレトモ自國ノ便宜ニ因リ其斡旋ヲ欲セサルトキハ正當ニ之ヲ拒絕シ得ヘシ然レトモ當事者双方ニ於テ第三國ノ其爭議ノ終了ニ付キ盡力スルコトヲ承諾スルトキハ即チ調停ニシテ此調停ヲ爲スハ當事者ノ依頼ニ因ルコトアリ第三國ノ任意ニ出ツルコトアルモ其之ヲ爲スト否トハ第三國ノ自由ニシテ單ニ調停ヲ爲ス場合ニハ爭議國双方ノ承諾アルヲ必要トス調停ハ管ニ談判ヲ容易ナラシムルニ止マラスシテ其爭議ヲ終了セシムヘキ双方ニ對スル公平ナル方法ヲ案出スルヲ得ルモノナレトモ其方法ハ仲裁ニ於ケル如ク爭議國ヲ拘束スルモノニ非スシテ調停者ノ意見ヲ用ユルト否トハ全ク爭議國各自ノ任意ニアルモノトス又縱令當事者ニ於テ其意見ヲ採用スルモ調停者トノ間ニ特別ノ約定ヲ爲スニ非サレハ其採用シタル意見ノ實行ニ關シテ調停者ハ擔保ノ責任ヲ

有スルモノニ非スルヲ調停ハ一國單獨ニテ爲スコトアリ數國合併シテ之ヲ試  
ムルコトアリ其關係ノ事情ハ各場合ニ於テ之ヲ詳ニスルノ外ナシ  
第三 仲裁  
仲裁トハ爭議國双方ノ條約ニ因リ其意見ヲ異ニスル點ヲ第三國ノ判定ニ一任  
シ其判定ニ因リ全ク爭議ヲ終了スルノ方法ニシテ今世紀ニ入りテヨリ此方法  
盛ンニ行ハレ又實例上其結果良好ナリシヲ以テ學者間ニ於テモ亦唱道セラレ  
近年英米兩國ハ國際爭議ヲ常ニ仲裁裁判ニ因リテ決スヘキ條約ヲ締結スルニ  
至レリ此條約ハ千八百九十七年米國上院ノ批准ヲ拒ミタルカ爲メ成立ニ至ラ  
サリシモ以テ仲裁ノ戰爭ヲ避ケ爭議ヲ決スルノ良法トシテ諸國ノ認ムルコト  
ヲ證スヘク日暹兩國新條約附屬議定書第三項ニ於テモ條約ノ解釋實行又ハ違  
犯ノ結果ニ關シテ生スル一切ノ爭議ハ直接ニ調和的協定ヲ爲スヘキ方法ノ盡  
キタル場合ニハ仲裁委員ノ判定ニ任スヘキコトヲ爲セリ  
爭議ヲ仲裁ニ付スルハ仲裁者カ之ヲ決スルニ適用スヘキ法則ヲ爭議國條約ニ  
因リテ指定スルコトアリ又其事件ニ適用スル法則ヲ仲裁者ヲシテ自ラ選定シ

テ適用セシムルコトアリ要スルニ仲裁ニ付スルニ當リテハ當事者ハ其仲裁者  
ノ判定スヘキ事項ヲ明確ニ指定シ仲裁者ハ其範圍内ニ於テ之ヲ審理裁判スヘ  
キモノニシテ其委託ニ係ル權限以外ノ裁斷ハ當事者ヲ拘束スルモノニアラス  
凡テ仲裁者ハ其爭議ニ何タル利害關係ヲ有セザル者ヲ選フヘキモノニシテ當  
事者ノ合議ヲ以テ之ヲ定メ第三國ノ君主大統領若クハ大學校或ハ個人ニテモ  
仲裁者ニ選定シ得ヘク就中君主ヲ仲裁者ト爲シタルトキハ君主自ラ其事件ヲ  
審理裁判スルヲ要セスシテ其選フ所ノ臣民ヲシテ之ヲ審判セシメ其判定ハ君  
主ノ名義ニテ發表シ得ルモノナレトモ團體又ハ個人ヲ以テ仲裁者ト定メタル  
トキハ其指定ノ團體又ハ個人ニ於テ自ラ審判ヲ爲スヘキモノナリ而シテ仲裁  
者ハ當事者双方ノ主張ヲ聽キ必要ナル證據ヲ蒐集シ事實審査ノ上之ヲ決スヘ  
ク仲裁者二人以上ナルトキハ多數決ヲ以テ決定スルモノニシテ凡テ其判定ハ  
爭議國間ニ締結シタル條約ト同一ノ効力ヲ有シ其爭議ノ事件ニ付テハ最終ノ  
決定トス要スルニ當事者ハ爭議ヲ仲裁ニ付スルニ當リ仲裁者ノ判定ニ絕對的  
ニ服スヘキコトヲ承諾セタルモノナルヲ以テ其判定ハ當然爭議國ヲ拘束スル

モノナルニ因リ第一仲裁者カ權限ヲ超エタルトキ第二仲裁者ニ偏頗ノ處置アルコト明カナルトキ第三其判定ノ國際公法ニ違犯スルトキニ非サレハ其判定ハ動かスヘカラサルモノタリ

### 第三章 強制手段

國家カ他國ノ爲メ權利ヲ侵害セラレ損害ヲ受クルトキハ其救済ヲ求ムルニ於テ爭議ノ平和的手段ヲ採リ得ヘキハ論ナシト雖モ若シ其要求ニ應セザルトキハ平和的ニアラスシテ少クトモ友誼ニ反スル手段ヲ以テ救済ヲ求ムルノ方法ヲ講シ得ヘク之ヲ名ケテ強制手段ト爲ス此手段タル戰爭ニ至ルニ非サルモ平和ト戰爭ノ中間ニ立ツモノニシテ國際公法ノ法理上ニ於テハ其正當ヲ認メ難キモノナレトモ國家ハ戰爭ヲ惹起スノ害ヲ來サスシテ爭議ヲ平和ニ終了スルノ良手段トシテ之ヲ行ヒ國際公法モ亦慣例上之ヲ容メ得サルモノニシテ斯ル手段ヲ類別スレハ第一報復ニ屬スルモノニシテ復讐ノ行爲ニ非ズ其報復ハ自國又ハ自國人民ニ他國ヨリ不利益ヲ與ヘタル場合ニ於テ自國モ亦報復トハ自國又ハ自國人民ニ他國ヨリ不利益ヲ與ヘタル場合ニ於テ自國モ亦

其國若クハ其國人民ニ對シテ同一ノ不利益ヲ與フルモノニシテ例ヘハ他國カ自國ヨリ輸入ノ物品ニ付キ適當ノ關稅ヲ課シ其輸入ヲ防カントスルトキ又ハ自國人民ノ其國ニ往來移住スルヲ禁退若クハ妨害スル場合ニ於テ自國ニ於テモ加害國ノ物品ニ重稅ヲ課シ又ハ其人民ノ往來移住ヲ禁退妨害シテ以テ加害國ヲシテ其不當ノ行爲ヲ廢止セヨメントスルカ如ク此報復ノ行爲ハ固ヨリ國家ノ獨立權ノ作用ニ出テ敢テ不法トスヘカラサルモノナレトモ其方法ノ友誼的ニ非サルヤ明カナリ

第二 復仇

復仇トハ他國ノ不法行爲ニ對シテ自國モ亦不法行爲ヲ以テ之ニ應スルモノニシテ復仇ノ文字ハ戰時ニ於ケル復讐的ノ國家行爲ニ關シテモ用非ラルト雖モ茲ニ所謂復仇トハ自國ニ對スル他國ノ不法行爲ヲ戰爭ニ訴フルコトナク救済セヨメントノ目的ニテ平時ニ行フ強制的行爲ニシテ例ヘハ加害國ニ對シテ被害國カ其國ニ約定シタル義務ノ履行ヲ拒ミ其國又ハ人民ニ與ヘタル特典若クハ權利ヲ剝奪シ又ハ加害國若クハ其人民ニ屬スル財產ヲ加害國ノ領土領海

又ハ公海ニ於テ差押フルモノヲ云フ此手段タル性質上最モ戰爭ニ接近シタル行爲ニシテ多クハ戰爭ヲ惹起スニ至ルヲ以テ止ムヲ得サル場合ノ外ハ復仇ヲ行フコト能ハス又此強制的手段ヲ行フ場合ニ於テモ對手國ノ不法行爲ノ程度ニ相應スヘキコトヲ要シ昔時ニ於テハ特別ノ復仇ト名ツクルモノ行ハレ即チ直接ニ損害ヲ蒙リタル人民ニ向ヒ國家力之ニ對手國又ハ其人民ニ對シテ個人的ニ復仇ヲ行フコトヲ許シタルコトナレドモ元來復仇ハ性質上總テ國家ノ行爲ナルヘキニ因リ個人的ノ復仇ハ今日國際公法上認めサルニ至リ諸國モ之ヲ行フモノナシ今復仇ノ一例ヲ舉クレハ千八百八十四年及ヒ八十五年ニ於テ佛國ハトシキンヲ征服セントスルニ當リ支那人團體ノ常ニ叛徒ニ加ハリ清國政府ハ佛國ノ要求アルモ之ヲ防遏セザリシニ因リ佛國艦隊ハ福州ノ造兵所ヲ攻擊シ臺灣ノ一部ヲ占領シ乍ラ北京ニ於テ佛國公使ノ其談判ニ從事シタルカ如キ是ナリ

第三 差押ハ海商ノ船隻ヲ捕留スルニ關シテ其船主ノ國籍ノ別ニ依リテ又ハ差押トハ國家カ自國版圖内ニ於ケル加害國ノ船舶ヲ拿捕抑留スルモノニシテ

其船舶ハ直チニ沒收セラルヘモノニ非ス然レトモ爭議ノ若シ戰爭ニ終ハルトキハ戰爭ノ効果ヲ差押當時ニ遡リテ及ボシ捕獲審檢所ハ其差押ヘタル船舶ヲ沒收スルモノタリ之ニ反シテ其爭議ノ平和ニ終了スルトキハ船舶ハ原所有者ニ返還セラルヘモノトス學者中差押ヲ復仇ノ一段トシテ論スル者アレトモ嚴正ニ之ヲ言ハ、差押ノ復仇ト異ナル點ハ復仇ニ於テハ加害國ノ領土領海及ヒ公海ニ於テ其財產ヲ攻撃又ハ拿捕シ差押ニ於テハ被害國ノ領海ニ於テ加害國若クハ其人民ノ財產ヲ拿捕スルモノニシテ其財產ハ船舶ニ限ルモノトス

第四 平時ノ封港

平時ノ封港トハ國家カ非常ナル不法行爲ヲ他國ヨリ受ケタルトキ加害國ヲシテ其行爲ヲ廢棄セシメ又ハ其救済ヲ爲サシメントスルニ於テ加害國ノ海岸港灣ニ交通通商ヲ遮斷スルモノニシテ兵力ヲ以テ之ヲ行フモノタリ茲ニ注意スヘキハ戰時ノ封港ニ於テハ交戰國并ニ中立國ノ船舶一切ノ交通ヲ遮斷スト雖モ平時封港ニ於テハ第三國ノ船舶カ其場所ニ出入スルヲ禁スル能ハスシテ單ニ被害國及ヒ加害國船舶ノ其封港ニ係ル場所ニ出入スルヲ遮斷スルニ過キス若



シ又第三國ノ船舶交通ヲ遮ルニ於テハ自ラ不法行為ニシテ國際公法上決シテ許サ、ル所タリ此道理ハ千八百八十四年佛國ノ臺灣ヲ封港シタルニ付キ第三國ノ商船モ之ニ出入スルヲ禁セントセシカ英國ノ抗議ヲ來シテ止ミ千八百八十六年佛國ヲ除キ歐洲大國ノ希臘國ヲ封港シテ土國ニ對スル開戦ヲ防クニ當リ同盟國ハ單ニ希臘ノ國旗ヲ有スル船舶ノ封港ヲ破ラントスルモノ、ミヲ拿捕シ又其搭載ノ物品ニシテ同盟國又ハ希臘以外ノ國ニ屬スルモノニアテ封港ノ通知以前ニ搭載シタルモノ并ニ其通知後ニ搭載シタルモノト雖モ通知以前ニ積荷ノ約定ニ保ルモノハ其船舶ヲモ拿捕スヘカラストノ訓令ヲ爲シ此封港ノ方法ニ對シテハ他國ノ異議ヲ爲シタルモノナク千八百八十七年國際法協會ノ決議モ此條件ヲ以テ前記ノ方法ヲ相當ナリト見做セリ

國際公法 終

(三十二年度講義錄)

法學士 秋山雅之介 講述  
**國際公法講義**

和佛法律學校發行

國際公法目次

緒論

第一章 國際公法ノ本質

第一項 法律上ノ地位

第二項 國際公法ノ定義

第三項 國際公法ノ基礎

第二章 國際公法ノ淵源

第一項 淵源ノ効力

第二項 淵源ノ種類

第三章 國際公法ノ沿革

第一項 國際公法ノ發達

第二項 國際公法ノ歴史

本論

國際公法目次

一  
三  
三  
六  
八  
一三  
一三  
一六  
二一  
二一  
二六  
三五

第一編 國際公法ノ主體

第一章 國家ノ性質

第一節 國家ノ定義及ヒ要素

第二節 國家ノ種類

第一項 君主連合國

第二項 聯邦又ハ合衆國

第三項 永世中立國

第四項 保護國

第五項 附庸國

第二章 國家ノ成立及ヒ亡滅

第一節 國家ノ成立

第一項 國家ノ承認

第二項 承認ノ効果

第二節 國家ノ亡滅

第三節 權利義務ノ繼承

第一項 舊國ノ存續スル場合

第二項 舊國ノ亡滅スル場合

第二編

第一章 國家ノ權利

第二章 權利ノ性質

第二章 財產權

第一節 總則

第二節 國家ノ版圖

第一項 領土ノ取得

第二項 版圖ノ境界

第三項 版圖ノ通行

第三章 獨立權

第一節 總則

第二節 國內ニ對スル獨立權

國際公法目次

三五

三五

三五

四四

四四

四五

四八

五〇

五四

五八

五九

六〇

六〇

六七

七四

七七

七八

八一

八六

八七

八七

九〇

九一

一〇九

一一〇

一一三

一一三

一三六

第一項 外國人民……………一三六

第二項 外國船舶……………一五三

第三節 國外ニ對スル獨立權……………一五八

第一項 版圖外ニ在ル國民……………一五九

第二項 公海中ノ船舶……………一六〇

第三項 治外法權……………一六六

第四項 領事裁判權……………一七七

第四章 自衛權……………一八三

第一節 總則……………一八三

第二節 干涉……………一八八

第一項 干涉ノ性質……………一八八

第二項 干涉ノ種類……………一九一

第一 非常ノ危險ヲ避クル爲メノ干涉……………一九二

第二 他國ノ干涉ヲ防止スルノ干涉……………一九三

第三 條約ニ基キタル干涉……………一九四

第四 內國ノ求援ニ基ク干涉……………一九七

第五 國力均衡ヲ保ツ爲メノ干涉……………二〇〇

第六 政治主義ノ傳播ヲ防止スル爲メノ干涉……………二〇二

第七 人道ニ反對スル行爲ヲ防止スルノ干涉……………二〇三

第五章 平等權……………二〇六

第一節 總則……………二〇六

第二節 國際上ノ禮式……………二〇八

第一項 國家ノ稱號及ヒ階級……………二一〇

第二項 國家代表者ノ席次及ヒ用語……………二一二

第三項 海上ノ敬禮……………二一四

第六章 交通權……………二一七

第一節 總則……………二一七

第二節 外交官……………二一九

第一項 外交官ノ發達……………二一九

第二項 外交官ノ階級……………二二一

第三項 外交官ノ就任……………二二五

第四項 外交官ノ特權……………二三〇

第五項 外交官ノ解任……………二三六

第三節 領事官……………二三八

第一項 領事官ノ性質……………二三八

第二項 領事ノ職務……………二四一

第三項 領事ノ任命及ヒ解任……………二四四

第四項 領事ノ特權……………二四六

第四節 條約……………二四八

第一項 條約ノ性質……………二四八

第二項 條約ノ成立……………二五〇

第三項 條約ノ形式……………二五四

第四項 條約ノ批准……………二五五

第五項 條約ノ効力及ヒ解釋……………二五八

第六項 條約ノ消滅及ヒ更新……………二六一

第三編 國際爭議……………二六七

第一章 總則……………二六七

第二章 平和手段……………二六八

第三章 強制手段……………二七二

國際公法目次 終

附録公刊目次

第一章 總論	一
第二章 精神學	一
第三章 精神學之分類	一
第四章 精神學之研究	一
第五章 精神學之應用	一
第六章 精神學之未來	一
第七章 精神學之法律	一
第八章 精神學之醫學	一
第九章 精神學之教育	一
第十章 精神學之社會	一
第十一章 精神學之政治	一
第十二章 精神學之經濟	一
第十三章 精神學之藝術	一
第十四章 精神學之宗教	一
第十五章 精神學之哲學	一
第十六章 精神學之科學	一
第十七章 精神學之歷史	一
第十八章 精神學之地理	一
第十九章 精神學之民族	一
第二十章 精神學之語言	一
第二十一章 精神學之文字	一
第二十二章 精神學之圖畫	一
第二十三章 精神學之音樂	一
第二十四章 精神學之舞蹈	一
第二十五章 精神學之戲劇	一
第二十六章 精神學之電影	一
第二十七章 精神學之攝影	一
第二十八章 精神學之印刷	一
第二十九章 精神學之出版	一
第三十章 精神學之發行	一
第三十一章 精神學之銷售	一
第三十二章 精神學之廣告	一
第三十三章 精神學之宣傳	一
第三十四章 精神學之公共關係	一
第三十五章 精神學之社會服務	一
第三十六章 精神學之職業	一
第三十七章 精神學之勞務	一
第三十八章 精神學之福利	一
第三十九章 精神學之慈善	一
第四十章 精神學之救濟	一
第四十一章 精神學之矯正	一
第四十二章 精神學之感化	一
第四十三章 精神學之教育	一
第四十四章 精神學之訓練	一
第四十五章 精神學之職業	一
第四十六章 精神學之服務	一
第四十七章 精神學之貢獻	一
第四十八章 精神學之未來	一
第四十九章 精神學之希望	一
第五十章 精神學之理想	一

リ英國刑法ニ於テハ無責任ノ原因タル精神病ヲ規定スルヲ以テ裁判官ノ任務ナリト爲スカ故ニ裁判官ハ各事件ニ付キ一々無責任ノ原因タル可キ精神病ハ如何ナル性質ヲ有セサル可カラサルヤヲ判定スルナリ

三 現刑法第七十八條ノ解釋 刑法第七十八條ニ曰ク「罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セザル者ハ其罪ヲ論セス」ト是ニ由テ之ヲ觀レハ我刑法ニ於テ精神病ノ爲メニ犯人ノ責任ヲ免スル場合ニツアルナリ知覺ノ喪失シタル場合及ヒ精神ノ喪失シタル場合即チ是ナリ此二者ノ區別ハ法律學上ノ區別ニ非スニテ寧ロ精神病學上ノ區別ニ屬ス抑精神病學上ニ於テ此ノ如ク二者ノ區別ヲ爲ス可キモノナルカ之ヲ換言スレハ刑法ノ所謂知覺ノ喪失トハ果シテ如何ナル場合ヲ謂ヒ又精神ノ喪失トハ果シテ如何ナル場合ヲ指シタルヤ之カ論究ヲ爲スニハ必ス精神病學ニ依ラサル可カラサルナリ故ニ余輩ハ刑法第七十八條ノ解釋ヲ爲スモ付テハ第一精神病學上ヨリ研究シ第二刑法學上ヨリ研究セザル可カラス然レトモ精神病學ハ專門ノ醫學ニ屬シ生理學解剖學心理學ヲ研究シタル後ニ非サレハ能ク之ヲ了得スルノ極メテ困難ナルモノナルヲ以

ヲ予ハ特ニ之ヲ論セラル可シ試モニ吳氏精神病学集要ノ一端ヲ掲ケテ以テ其困難ノ大ナルコトヲ明カユセシ曰ク精神ノ原障礙トハ諸種ノ精神病ヲ構成スル極單最簡ノ精神障礙ヲ謂ヒ諸病ニ共通スル原證候ナリ夫レ精神病ハ其種性一ナラサレトモ皆共ニ許多證候ノ集團ニシテ原障礙ノ相互配合シテ構成スル所ノモノナリ故ニ精神病ノ各症ヲ論スルノ前ニ其原證候ヲ概括通覽シテ之ヲ論定スルハ極メテ必要ナリ

夫レ精神病ノ證候ヲ論スルニ當リテ常ニ銘記ス可キハ精神病ノ精神ノミノ疾病ニ非スシテ全身ノ疾病ナルコト是ナリ故ニ其證候ヲ論スルニ當リテ精神上ノ障礙ノミヲ顧慮シテ敢テ之ヲ問ハサルハ一大迷謬ニシテ精神病醫者タル者ハ必ス其他常ニ感覺運動等身體上ノ障礙ヲ忽視シテ不問ニ置ク可カラズ蓋シ此數者ノ如キハ其病ノ診斷及ヒ豫後ヲ論スルニ當リテハ其價值ノ却テ或ハ彼レニ過クルコトアルモノナリ精神病ヲ講セントスルモノハ須ク先ツ此病ノ腦病ノ一種タルコトヲ記シ腦髓ハ精神感覺運動血行榮養等諸機能ノ中樞タルコトヲ記セヨ此ノ如クニシテ而シテ後其病ニ接セハ必スヤ思ヒ宇ニ過クルモノナラ

ラン

夫レ精神病ノ各原症ハ皆正常ノ異變ナレハ之ヲ論スルニ當リテハ一ニ心理學ノ分類ニ從フテ以テ最モ適當ナルコト、ス心理學ニ於テハ精神ヲ以テ唯一不可分ノモノトスレトモ之ヲ論究スルニ當リテハ之ヲ分類シテ感觸(刑法ニ所謂知覺ノ屬スル所ナリ)觀念(刑法ノ所謂精神ノ屬スル所ナリ)意思ノ三者トスルノ最モ便利ナルヲ見ルナリ左レハ精神ノ病症ヲ論スルニ當リテモ亦感觸ノ障礙觀念ノ障礙意思ノ障礙ノ別ヲ立ツルハ説明上極メテ便利ナリ云々

吳氏ノ論スル所ニ依リテ之ヲ觀レハ感觸ノ障害モ觀念ノ障害モ亦意思ノ障害モ俱ニ精神機能ノ變動ヲ生シ隨テ其ノ人ヲシテ是非ノ辨別心ヲ缺亡セシムルノ結果ヲ生スルニ至リテハ常ニ同一ナルカ如シ故ニ現刑法ニ規定スルカ如ク精神又ハ知覺ノ喪失ニ非サレハ是非ノ辨別ナキ者ト爲スヲ得ス又ハ犯罪ノ責任ヲ免スルコトヲ得ストモ殆ト精神病者ノ數ヲ盡シテ而シテ之ヲ研究スルモ到底刑法ノ條件ヲ充ス可カラサルヤ明ガナリ醫學上ヨリ之ヲ論スレハ感觸

ノ障害アル場合ニ於テ多クハ感觸ノ發動ノ難易若クハ其強弱ニ關スルモノニシテ而シテ全ク總テノ感觸ヲ缺キ殆ト木石ト其狀ヲ同シウスル者ハ僅ニ缺落症狀ニ於テ之ヲ見ルノミ然レトモ此場合ト雖モ唯履ニ高尙ナル精神感覺ノ缺落ヲ見ルコト多クシテ而シテ總テノ精神感覺ヲ缺落スルコト殆ト稀ナリ即チ感觸ノ障害ニ於テ感情精神ノ全部喪失スルコトハ殆ト之アルヲ知ラサルナリ觀念ノ障害ニ於テモ亦然リ觀念經過ノ遲速ニ於テ障害ヲ生スル場合多シト雖モ未タ嘗テ全部ノ觀念ヲ喪失セシムル場合ハ全ク之ナレ或ハ精神衰弱ノ甚キ癡鈍症ノ如キハ所謂缺落症狀ニシテ觀念ノ機能其用ヲ爲ササルコトアルモ是レ唯考慮ト行爲トヲ一致セシムルノ能力ヲ缺キタルニ過キササルヲ以テ未タ以テ精神全部ノ喪失アリト謂フヲ得サルナリ意思ノ障害ニ於テモ多クハ意思ノ缺亡スル場合アルモ是レ亦多クハ高等意思ノ缺亡ニ屬シ未タ全部ノ意思ノ缺亡アリト謂フ可キモノニ非サルナリ

各國ノ刑法ニ於テモ亦精神病ノ原因ニ由リテ罪ヲ犯シタル者ヲ論セサルハ大抵皆同一ナリト雖モ其精神病ノ如何ナル程度ニ於ケル場合ヲ以テ無責任ノ原

因ナリト爲スヤ否ヤニ至リテハ各國其規定ヲ一ニセサルノミナラス未タ確實不拔ノ原則ヲ掲ケタルモノアルヲ見ヌ蓋シ精神病ノ問題ハ素ト是レ醫學上ニ屬スルモノニシテ刑法家又ハ裁判官ノ深ク研究セサル所ナルヲ以テ多ク之ヲ醫師ノ鑑定ニ放任セント欲スルモノナリ然ルニ醫學上ノ研究ト法學上ノ研究ハ自ラ其目的ヲ異ニスルカ故ニ醫師ノ主張スル精神病ノ理由ハ必スシモ裁判官ノ爲メニ無責任ノ理由ト爲ラサルモノアリテ二者ノ間屬低觸ヲ生スルコトアリ醫師ハ精神病ノ何ノ種類タルヲ問ハス苟モ精神ニ障害アル以上ハ其障害ノ輕重ヲ問ハス之ヲ以テ一ノ精神病者ナリト名ケ普通ノ自由ヲ缺ク者ナリトシ又普通ノ辨別心ヲ失フ者トシテ悉ク以テ無責任ナリト爲サント欲シ法律家又ハ裁判官ハ精神上ニ於ケル多少ノ障害アリトスルモ苟モ事理ノ辨別ヲ爲スアル者ナリト觀ルトキハ之ヲ以テ普通ノ健人ナリト看做シテ之ヲ罰セシムコトヲ欲スルナリ今日ノ趨勢ニ於テハ醫師ハ醫學ノ範圍ヲ擴張シテ精神病者即チ無責任者ノ區域ヲ廣大ニセント欲シ法律家又ハ裁判官ハ醫學上ノ侵入ヲ防衛シテ精神病者ノ區域ヲ退縮セシメント欲スルノ傾キアリ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ醫



學ト法學ノ争ハ到底免カル可カラサルモノナリト雖モ然レトモ法律家ニシテ醫學ヲ知ラス醫學者ニシテ法律ヲ知ラス唯其知ル所ニ就テ以テ吾説ヲ主張スルハ未タ以テ立論ノ公平ヲ得タルモノナリト謂フヲ得精神病醫學者ニ於テモ少シク法律ヲ研究スルコトヲ爲シ又法律家ニ於テモ少シク精神病上ノ醫學ヲ研究スルコトヲ爲サハ始メテ過ウ少ウスルニ庶カラシカ是レ予カ故ラニ精神病ノ問題ニ就テ多少醫學上ノ論ヲ講説スルニ至リシ所以ナリ試ニ一歩ヲ譲リ精神病ノ事ハ悉ク以テ之ヲ醫師ニ放任スルヲ以テ得策ナリトスルモ是レ唯精神病者ノ疑アリテ醫師ノ鑑定ヲ要ス可キモノナリト定マリタル場合ニ於テ然ルモノニシテ事ノ初ニ當リテ未タ何等ノ疑ヲ發セサルノ場合ニ於テ能ク精神病者タルノ疑ヲ起スニ至リテハ到底平生精神病學ノ研究ヲ爲シタル者ニ非スンハ能ク可ラサルノ業ナリトス要スルニ現刑法ノ精神病ニ關スル規定タル其不完全固ヨリ之ヲ論スルノ必要ナシト雖モ若シ刑法ノ不完全ニ加フルニ裁判官ノ無知無學ヲ以テスルアラハ精神病ニ關スル事件ニ付テハ必スヤ二者其一ニ出ラサル可カラサルノ結果ヲ生シ或ハ醫師ノ鑑定ニ拘束セラレテ

而シテ判決スルコトアル可ク或ハ醫師ノ鑑定ヲ採用セスシテ而シテ判決スルコトアル可シ醫師ノ鑑定ニ放任シテ裁判ヲ爲スハ即チ是レ裁判官自ラ裁判ヲ爲スニ非スシテ醫師間接ニ裁判ヲ爲スモノナリ若シ醫師ノ鑑定ニ據ラスシテ裁判ヲ爲サンカ判事ハ事實ノ審理ヲ盡サス妄斷愷説ヲ以テ裁判ヲ爲スモノナリ孰レノ場合ニ於テスルモ到底正確ノ裁判アリト謂フヲ得サルトキハ即チ社會ニ於ケル刑法問題ニ就キ最モ危險ナル問題ハ精神病ノ問題ヨリ甚シキハトケン宜シク刑法ノ不備ヲ改正スルト同時ニ大ニ裁判官ノ腦髓ヲ選擇セサル可カラサルナリ

今ヤ精神病ノ規定ニ付テ刑法ノ改正ヲ爲サントスルニ際シ果シテ如何ノ規定ヲ爲スヲ以テ適當ト爲スカ請フ少シク之ヲ論セシ

精神病ノ種類其數多シト雖モ先ツ之ヲ類別スルトキハ三種ト爲スコトヲ得第一精神機能發達ノ時期ニ於テ發達ノ停止シタル場合例ヘハ癡鈍又ハ精神ノ衰弱ノ如シ第二精神機能ハ相當ニ發達シタル後疾病其他ノ原因ニ依リテ精神機能ノ運用ヲ妨害セラレタル場合第三疾病以外ノ原因ニ依リテ一時精神機能ノ

運用ヲ失ヒタル場合例ハ睡眠中ノ狀態酒狂ノ如シ第一第二ノ場合ハ上來既ニ論スル所ノモノニシテ醫學上名ケテ精神病ト爲ス所ノモノナリト雖モ第三ノ場合ニ至リテハ精神病學ニ於テ之ヲ以テ純粹ノ精神病者ト區別シ病人ヲ以テ之ヲ目ヒス故ニ若シ醫學上所謂精神病ニ原因シテ犯罪ノ無責任ヲ論セシトスルトキハ第三ノ場合ニ於テ罪ヲ犯シタル者ハ其結果第一第二ノ場合ニ於テ罪ヲ犯シタル者ト同一ニ出ツルト雖モ刑法上ノ不問罪ト爲スヲ得サルニ至ル可シ如何トナレハ第一第二ニハ精神病患者ニシテ第三ノ場合ハ精神病ノ患者ニ非サルナリ然ラハ則チ若シ精神上ノ變狀ニ原因スル總テノ場合ヲ網羅セシトスルニハ宜シク汎濫ノ文字ヲ用ヒテ精神ノ障害ト爲サハ即チ其障害疾病ニ屬スル者ト屬セサルモノトニ拘ハラシ悉ク之ヲ包含スルカ故ニ上段列擧スル所ノ第一乃至第三ニ至ルマテノ總テノ場合ヲ含ムニ至ル可シ予ハ刑法ノ成文ヲ改メ精神ノ障害ニ依リ是非ノ辨別ナクシテ爲シタル所爲ハ其罪ヲ論セストノ規定ヲ爲スノ適當ナルヲ信スルナリ蓋シ精神ノ障害ニハ大小輕重アリテ精神障礙ノ事實其モノ既ニ是非ノ辨別心ヲ喪失セシムルニ足ル可キモノナリ或

ハ又障害ノ事實アリト雖モ其障害ハ實ニ輕微ニシテ未タ以テ是非ノ辨別心ヲ喪失セシムルニ足ラサル場合ナシトモス犯罪ノ原因ハ等シク精神障害ニ出ツルト云フト雖モ是非ノ辨別心ナキ場合ト其否ラサル場合トニ付テ刑法ノ制裁ヲ同シウスルハ條理上許ス可カラサルモノナリ故ニ精神ノ障害ト辨別心ノ喪失ノ二條件ヲ以テ無責任ノ理由ト爲サハ或ハ以テ刑法ノ制裁ヲ誤ラサルニ近カラシカ若シ夫レ精神ノ障害アリテ未タ是非ノ辨別心ヲ失ハサル者ノ犯罪ニ至リテハ到底之ヲ以テ普通人ノ犯罪ト同一視ス可カラサルハ論ヲ俟タサルヲ以テ其障害ノ程度ニ應シテ犯人ノ責任ヲ輕ウスルハ是レ又刑法上ノ必要ナル規定トス之ヲ要スルニ精神障害ノ原因ニ依リテ罪ヲ犯ス者アレハ是非ノ辨別心ヲ缺キタル場合ニ於テハ不問罪ト爲シ其是非ノ辨別心ヲ缺カサル場合ニ於テハ單ニ宥恕ノ理由アリトスルノ規定ヲ設タルヲ以テ穩當ナリトス此ノ如ク論スルトキハ則チ精神病ノ種類ノ何タルニ拘ハラシ其生レナカラニシテ精神ノ發達セサル者モ亦中途ニシテ疾病ノ爲メニ其發達ヲ妨ケラレタル者モ亦或ハ疾病以外ノ原因ニ由リテ一時精神ノ障害ヲ受ケタル者モ苟モ是非

ノ辨別心ヲ喪失スルニ至ラシメタルトキハ常ニ以テ不論罪ノ原因タル可ク之ニ反シ是非ノ辨別心ヲ喪失セシムルニ至ラサル場合ニハ如何ナル精神病ニ罹ル者ト雖モ到底宥恕ノ原因タルニ過キサルナリ

以上既ニ一般ノ精神病者ニ付テ之ヲ論セリ是ヨリ一時ノ精神障害ヨリ生スル犯罪ニ對シ吾刑法ハ果シテ如何ナル制裁ヲ加フルヤ少シク各種ノ場合ヲ舉ゲテ之ヲ論究セント欲スルナリ

第一 醉狂者

醉狂ニ乘シテ罪ヲ犯シタル時ハ刑法上如何ナル責任アルカ本問ヲ論スルニ當リテ先テ醉狂ノ種類ヲ區別スルヲ要ス若シ酒荒ニ因リテ一種ノ精神病所謂疾病性酩酊又ハ病醜ト名ク可キ精神病ニ罹リ之カ爲メニ辨別心ヲ失フニ至リタルトキハ則チ所謂精神ノ喪失ニ因リテ是非ノ辨別心ナキノ行爲ニ保ルヲ以テ不論罪ノ理由ト爲ル可キヤ論ヲ俟タサル所ナリ然レトモ疾病性酩酊ト普通酩酊ハ其性質同一ナラスシテ酩酊ハ酒精作用ノ爲メニ一時興奮ノ状態ヲ呈スルニ過キスシテ未タ以テ精神ノ疾病ト爲リタルモノニ非ス今精神病ニ非サル

酩酊者酒精ノ作用ニ因リテ罪ヲ犯スアラハ刑法上果シテ如何ナル制裁カアル若シ夫レ酩酊ノ結果全ク是非ノ辨別ヲ喪失シテ而シテ罪ヲ犯スニ至ラハ固ヨリ何等ノ制裁モ加フルノ理ナシ然レトモ若シ最初ヨリ犯罪ヲ決行スルカ爲メニ特ニ酒精ヲ用ヒ興奮ノ用ニ供スルアラハ如何例ヘハ一懦夫アリ怒ヲ人ニ與ヘント欲ス然レトモ平素怯懦ニシテ自ラ奮テ其人ヲ刺スノ勇ナシ是ニ於テ酒ヲ用ヒ大ニ興奮シ酒氣ニ乘シテ而シテ其人ヲ殺セリ然ルニ其犯罪ヤ全ク酒精ノ作用ヨリ出テタルモノニシテ人ハ犯罪後ニ至リテ自ラ犯罪實行ヲ記憶スル能ハサリシ即チ犯人ハ全ク酒精ノ爲メ精神ヲ喪失シテ而シテ罪ヲ犯シタルモノナリ此場合ニ於テ犯人カ人ヲ殺スノ目的ヲ以テ自ラ興奮セント欲シテ酒精ヲ用ヒ而シテ興奮ノ結果人ヲ殺スニ至リタル所ハ則チ豫メ謀テ人ヲ殺シタルモノナルヲ以テ全ク謀殺罪ヲ以テ之ヲ論セザル可カラス然レトモ犯罪實行ノ當時ニ於テ是非ノ辨別ヲ喪失スル所ヲ以テ之ヲ觀レハ所謂精神ノ喪失ニ因リテ辨別ヲ缺キタルモノナルヲ以テ不論罪ト爲サ、ル可カラス果シテ謀殺ナルカ將タ無罪ナルカ予ヲ以テ之ヲ觀レハ此ノ如キ場合ニ於ケル犯罪ハ之ヲ論セザ

ルヲ以テ正當ナリトス犯人カ初メ人ヲ殺スノ目的ヲ以テ自ら與番セント欲セ  
 テ酒精ヲ用ヒタルハ殺人ノ豫謀タルヲ免カレスト雖モ然レトモ若シ犯人ニシ  
 テ唯此豫謀ノミニ止マラシカ刑法ハ之ニ對シテ何等ノ制裁ヲ加フルヲ得ス何  
 トナレハ刑法ハ犯罪ノ意思又ハ犯罪ノ豫備ヲ罰スルモノニ非サレハナリ然レ  
 ニ犯人ハ進テ殺人ノ實行ヲ爲スニ至レリ而シテ其實行ノ場合ニ際シテ犯人ハ  
 既ニ自ら遺忘シテ其爲ス所爲ノ何事タルヲ辨別セザリシモノナリ犯人犯罪ノ  
 實行ニ際シ或ハ自由ヲ失ヒ或ハ辨別心ヲ失フニ於テハ縱令其以前ニ於テ豫謀  
 ノ事實アリトスルモ未タ以テ刑法ノ制裁ヲ科ス可キモノニ非サルナリ蓋シ犯  
 人ハ既ニ犯罪ノ決心ヲ爲シ豫謀ノ事實ヲ行フト雖モ未タ犯罪ニ着手セサル以  
 前ニ於テ或ハ前非ヲ悔ヒ犯罪ヲ中止セザルコトナントセス即チ善道ニ復歸ス  
 ルノ望ミ絶エタルモノナリト謂フ可カラス其事ヲ決行スルニ當リテハ最早善  
 道ニ復歸スルノ途絶クト雖モ此一瞬間ニ於テ忽然是非ノ辨別心ヲ失フニ至ラ  
 ハ是レ即チ犯罪ハ辨別心ナキノ時ニ於テ發生シタルモノナルヲ以テ固ヨリ刑  
 法ノ目的ト爲ル可キモノニ非ス犯罪ハ不論罪ノ時期ニ於テ成立シタルニ拘ハ

ラス其豫謀ノアリタルノ理由ヲ以テ之ヲ罰セントスルハ我輩到底其說ニ服ス  
 ルコトヲ得サルナリ要スルニ我輩ハ犯罪ノ豫謀ヨリ犯罪ノ實行ニ至ルマテノ  
 時期ニ於テ犯人ノ精神ヲ分析シ而モ犯罪實行ノ際ニ於テ是非ノ辨別ヲ欠クア  
 ルトキハ縱令豫謀ノ時期ニ於テ辨別心アリトスルモ犯人ノ責任上毫厘モ影響  
 ヲ及ホスモノニ非スト爲ス者ナリ

第二 瘖啞者

瘖啞者ニハ二種アリ生レナカラニシテ瘖且啞ナル者アリ又成人ト爲リテ而シ  
 テ後ニ瘖啞者ト爲ル者アリ生レナカラノ瘖啞者ハ知識ノ發達ヲ養成スルノ機  
 關ヲ缺クカ爲メニ全ク精神機能ノ發育ヲ爲スコト能ハス生レテヨリ成年ニ至  
 ルマテ精神上殆ト常ニ同一ノ人ニシテ全ク精神ノ缺落症ナリ精神ノ缺落症ハ  
 是レ一ノ精神病ニシテ所謂精神ノ喪失ニ屬スル者ナルカ故ニ此人ノ所爲ヲ以  
 テ無責任ト爲スハ固ヨリ當然ナリ然レトモ成年ニ至リテ疾病若クハ其他ノ事  
 變ノ爲メニ聽官語言ノ機能ヲ失フタル者ハ外形ノ感觸上普通人ト多少異ナル  
 所アリト雖モ精神上ノ發達ニ至リテハ未タ必スシモ普通人ニ異ナル所アリト

謂フ可カラス聽官語官ノ缺損ハ決シテ人ノ從來發達シタル智識ノ缺損ヲ來ス  
ノ結果ヲ生セシム可キモノニ非サルナリ然ラハ此種ノ瘖啞者ハ瘖啞ノ結果是  
非ノ辨別ヲ喪失スルニ至ルモノニ非サルコト敢テ多辯ヲ要セサルナリ唯瘖啞  
ノ爲メニ健人ヨリモ多少異ナリタル所ノ感觸ヲ有シ多少機能ノ發達ヲ缺ク所  
アル可キカ故ニ其責任ノ程度ニ至リテハ大ニ酌量ス可キ所ノモノアリト雖モ  
之ヲ以テ全ク無責任者ト爲スハ道理ニ適合スル所ノ法律ナリト謂フヲ得サル  
可シ中年ノ瘖啞者ニシテ瘖啞ノ理由ヲ以テ刑罰ノ制裁ヲ免カルヲ得トセハ  
我ハ視官嗅官ヲ失ヒタル者モ亦刑法上同一ノ制裁ヲ受ケサル可カラス其他疾  
病ノ爲メ身體ノ不具ト爲リタル者或ハ脊慢者又ハ天刑病者ノ如キハ固ヨリ無  
責任者ト爲サ、ル可カラサル可シ

然ルニ刑法第八十二條ヲ見ルニ瘖啞者罪ヲ犯シタルトキハ其罪ヲ論セストア  
リ由是觀之荷モ瘖啞者タル以上ハ其天然ノ瘖啞者タルト又中年ノ瘖啞者タル  
トニ拘ハラズ唯瘖啞ノ理由ヲ以テ直チニ無責任者タルコトヲ得ルナリ刑法ノ  
理由ノ存スル所予深ク之ヲ知ラスト雖モ道理上之ヲ研究スレハ則チ或ハ本條

ヲ設ケタルハ立法者ノ疎漏ニ出テタルナキヤヲ疑ハサルヲ得サルモノアリ如  
何トナレハ若シ本條ニ所謂瘖啞者ハ性來ノ瘖啞者ヲ指シタリトセンカ是レ精  
神ノ缺落症ニ屬スル者ナルカ故ニ所謂精神ノ喪失者ニシテ當ニ第七十八條ノ  
支配ヲ受ク可キ者ナルヲ以テ別ニ本條ヲ規定スルノ必要アルナシ若シ之ニ反  
シ中年ノ瘖啞者ヲ指シタリトセンカ是レ決シテ是非ノ辨別心ヲ失フ者ニ非テ  
ルカ故ニ固ヨリ無責任者ト爲スノ理由アルヲ見ス果シテ然ラハ何レノ方ヨリ  
論スルモ瘖啞ノ事實ヲ以テ不諭罪ノ理由ト爲スハ實ニ解ス可カラサルノ規則  
ト謂ハサル可カラサレハナリ殊ニ現今教育ノ制度大ニ進歩スルニ隨テ瘖啞者  
モ亦適當ノ教育ヲ受クルノ途ヲ設ケルニ至レリ若シ東京盲啞院ヲ卒業セタル  
瘖啞者ニシテ重罪輕罪ヲ犯ストキハ其是非ノ辨別心ヲ有スルコト毫厘モ疑ナ  
シトスルモ刑法ノ明文ニ依リ必ス之ヲ無罪ト爲サ、ル可カラス第八十二條ノ  
規定モ亦此ニ至リテ社會ノ惡人ヲ庇保スルニ勉メタリト謂フ可キナリ我輩實  
ニ本條ノ理由ヲ知ルニ若マズンハ非ス、  
尙ホ本條ノ但書ニ付テ一言ス可シ曰ク但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ

懲治場ニ留置スルコトヲ得下懲治場留置ハ刑罰ニ非スシテ教育ヲ以テ目的ト爲スモノナリ即チ少年子弟ニシテ罪ヲ犯シ是非ノ辨別ナキカ故ニ其責任ヲ問ハサル場合ニ於テ殊ニ懲治場ノ留置ヲ命スルハ是レ其少年子弟成長スル所ノ家庭ノ教育宜シキヲ失スルカ爲メ政府其父兄ニ代リテ之カ教育ヲ爲スノ目的ヲ以テ之ヲ懲治場ニ納レントスルナリ故ニ是非ノ辨別ナキ少年子弟ニ對シテ懲治場ノ留置ヲ命スルハ大ニ其理由アリト雖モ瘡痍者ニ對シテ懲治ヲ命スルハ是レ教育ヲ爲ス可カラサル者ニ對シテ教育ヲ爲サント欲スルモノナレハ全ク懲治場留置ノ目的ニ反スルモノナリト謂ハサル可カラス若シ夫レ瘡痍者ノ危險ヲ防カンカ爲メニ懲治場ニ留置セントスルカ精神ノ喪失者ニ對シテモ亦同一ノ規定ヲ爲ササル可カラズ然ルニ精神ノ喪失者ニ對シテハ此ノ如キ規定ヲ設ケスシテ唯リ瘡痍者ニ對シテ此規定ヲ設ケ瘡痍者ヲ以テ是非ノ辨別ナキ幼者ト同視スルハ刑法ノ規定宜シキヲ得タリト謂フ可カラズ

懲治場留置ニ付テハ尙ホ後段年齢上ノ無責任ニ至リテ深ク論スル所アル可シ

第三 夢中犯罪

夢中生活ト精神病トハ同一ノモノニ非ス夢中生活ハ眠レル者ノ現象ニシテ精神病ハ醒メタル者ノ現象ニ屬ス夢ニハ五感閉塞シテ外界體領ナク隨意運動ナク之ニ反シ精神病者ニハ其醒メタル時ト雖モ此數事サキモノナリ然レトモ其是非ノ辨別心ヲ失フテ面シテ事ヲ行フニ至リテハ二者俱ニ同一ナルヲ以テ之ニ加フル所ノ制裁モ亦同一ナル可キハ固ヨリ當然ナリ

夢中生活ハ精神病ニ似テ而シテ精神病ニ非ストスレハ夢中生活ノ結果ニ因リテ爲シタル行爲ヲ目シテ直チニ知覺精神ノ喪失ニ出テタル行爲ナリト謂フコトヲ得ス刑法第七十八條ニ規定スル所ノモノハ知覺精神ノ喪失ニ因リ是非ヲ辨別セサルノ場合ニ在リトス即チ是非ノ辨別ノナキハ知覺精神ノ喪失ニ原因セサル可カラサルコトヲ規定シタルモノナリ果シテ然ラハ夢中生活ニ因リ是非ノ辨別ナキニ出テタル行爲ハ本條ノ範圍外ニ在ルカ如シ若シ夫レ本條ノ規定ハ夢中生活ノ場合ヲ包含セストモシカ夢中生活中是非ノ辨別ナキ行爲タル行爲ハ之ヲ罰セサル可カラサルカ若シ又辨別ナキ行爲ハ之ヲ罰スルコトヲ得ストモシカ刑法中如何ナル規則ヲ適用セレントスルカ我輩愈深ク規則ヲ研究

シテ急深ク本條ノ不備不完全ヲ感セスシハ非ナルナリ  
 第四 魔酔中ノ行為  
 魔酔ニ二種アリ(一)自發ノ魔酔(二)他發ノ魔酔是ナリ自發ノ魔酔其狀全ク寢眠  
 中ニ同シキカ故ニ寢眠者ノ行為ト同一ヲ以テ論セサル可カラス是レ必覺精神  
 病ノ作用ニ非スシテ一時精神機能ノ活動停止シタルニ過キサルモノナレハ決  
 シテ精神喪失者ト看ル可カラサルヤ明ケン  
 他發ノ魔酔ハ魔酔術ヲ行フ者ノ行為ニ因リテ始メテ發スル魔酔ニ係ルモノニ  
 シテ其魔酔ニ罹リタル者ノ爲シタル行為ハ固ヨリ自發魔酔者ノ行為ト異ナル  
 所ナキヲ以テ其制裁ニ至リテハ必ス同一ナラサル可カラス然レトモ魔酔術ヲ  
 行フ者ハ刑法上果シテ如何ナル責任ヲ有セサル可カラサルカ魔酔術ヲ施用シ  
 テ人ヲシテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ教唆罪ヲ以テ罰ス可キカ將タ普通ノ  
 正犯ヲ以テ罰ス可キカ若シ夫レ教唆ハ必ス意思ノ連絡ヲ要スルモノナリトモ  
 ハ魔酔者ハ魔酔中術者ノ意思ヲ傳承スル能ハサルカ故ニ決シテ意思ノ連絡ア  
 リト謂フコトヲ得サルカ故ニ術者ヲ目スルニ教唆者ヲ以テヌ可カラサルヤ固

コリ多辯ヲ俟タス然レトモ若シ教唆者ト被教唆者間ニハ意思ノ連絡ヲ以テ必  
 要條件トセス何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス或人カ他人ヲ使役シテ重罪輕罪  
 ヲ犯サシムルノ所爲ヲ以テ教唆罪ナリトモハ魔酔術者カ魔酔者ニ對シテ魔酔  
 術ヲ施シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタルハ恰モ幼者狂者ヲ使役シテ犯罪行為ヲ行  
 ハシメタルト同一ノ場合ナルヲ以テ幼者狂者ニ付テ向ホ教唆罪ヲ構成スルト  
 モハ魔酔術者ニ對シテモ向ホ教唆罪ヲ構成スト謂フ可キニ似タリ然レトモ本  
 論ニ付テハ素論アリ數人共犯ノ章ニ至リテ深ク論究スル所アル可シ  
 第二項 刑ノ執行中精神ノ喪失セル場合  
 刑ノ宣告確定後精神ノ障碍ヲ生スルコトアリ此場合ニ於テ刑罰ハ向ホ之ヲ執  
 行セサル可カラサルカ現刑法ノ規定ニ依レハ囚人ノ疾病ハ刑ノ執行ヲ停止ス  
 ルノ原因ト爲ラサルナリ(一)自由刑ニ付テハ其無期ト有期トヲ問ハス刑ノ執行  
 中疾病ニ罹ルアル者ハ之ヲ病監ニ移シ其病ヲ治セシム定役アル者ハ其役ヲ免  
 ス而シテ疾病ノ期間ハ之ヲ刑期ニ起算スルナリ故ニ刑ノ宣告確定後未タ一日  
 ノ定役ニ服セズシテ忽チ精神病ニ罹ル者アリトモ刑期滿限マテハ病監ニ在



リテ刑ノ執行ヲ爲ス者トス即チ自由刑ニ付テハ囚人ノ疾病ハ刑ノ執行ヲ停止スルノ原因ト爲ラザルナリ(一)死刑ニ付テハ之ヲ以テ精神病患者ニ執行スルハ刑罰ノ本旨ニ反ルモノナリト論スル者アリ蓋シ刑罰ハ單ニ威嚇ノ主義ニ出ツルモノニ非ス實ニ犯人ノ罪業ヲ消滅セシメントノ目的ヲ有スル者ナリ然ルニ犯人ハ既ニ精神ヲ喪失シ是非ノ辨別ヲ爲スノ能力ヲ有セザル者ナリ是非ノ辨別ナキ者ニ對シテ死刑ヲ執行スルモ其死ハ果シテ如何ナル理由ニ原因スルコトヲ知ル能ハス隨テ罪業消滅ノ目的ヲ達スルヲ得ザルナリト然レトモ予ハ刑罰ノ目的上ヨリスルモ又刑法ノ解釋上ヨリスルモ到底論者ノ說ニ左祖スルコト能ハザルナリ刑罰ハ社會ノ防衛法ナリ社會ノ危害ヲ爲シタル者ニ對シテ此防衛法ヲ行フニ於テ其疾病ト否トヲ區別スルノ違フテシテ敢兵ヲ襲フテ之ヲ破ルニ當リテ其備ノ整スルヲ待ツハ是レ宋襄公ノ仁ノ死刑ノ囚人一旦精神病ニ累リ其平癒ヲ待テノ間忽チ逃走スルコトアラハ如何論者ノ說實ニ事情ニ迂ナリト謂ハサルヲ得ス若シ夫レ刑法ノ解釋上ヨリ論スレバ現刑法ハ死刑ノ宣告ヲ受ケタル產婦ニ對シテ分娩後一百日ヲ猶豫スルノ規定アリト雖モ其他ノ婦

合ニ於テ死刑ノ執行ヲ猶豫スルノ規定ナシ故ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ何人ト雖モ司法大臣ノ命令後三日内ニ其執行ヲ受ケザル可カラザルナリ(三)財産刑ニ付テハ精神病患者ノ財産ヲ管理スル者本人ニ代リテ之ヲ執行ヲ受ケ可キニ若シ本人ノ財産之ナクシテ財産刑ノ執行ヲ爲ス可カラザルトキハ換刑處分ヲ爲サ、ル可カラス此場合ニ於テ精神病患者ニ對シテ換刑處分ヲ爲スコトヲ得ルカ曰ク自由刑死刑スラ尙ホ且之ヲ執行不可キコトヲ論セリ況ヤ換刑處分ニ於テヤヤ

第四款 年齢

刑法上人ノ齡ヲ區別シテ三期ト爲ス第一期ハ辨別力ノ缺乏スル場合第二期ハ辨別力ノ疑アル場合第三期ハ辨別力ノ分明ナル場合而シテ辨別力ノ分明ナル時期ニ於テ又細別ヲ爲スコトヲ得一ハ辨別力ノ發達不完全ナル場合ニハ其發達完全ナル場合はナリ



據ラサル可カラス或ハ各人ニ就キ一々之ヲ試驗スルニ在リ或ハ豫メ一定ノ法律ヲ設ケテ之ヲ推定スルニ在リテ各人ニ付テ一々之ヲ試驗ヲ爲スハ其正當ヲ得ルニ於テハ確實ナル所アリト雖モ第一期ノ者ニ就テモ亦仍ホ辨別力ノ有無ニ付テ之ヲ試驗ヲ爲スハ殆ト無益ノ業ナリト謂ハサル可カラス何トナレハ第一期中ニ在ル幼者例ヘハ二三歳ノ童子ニ對シテ辨別力ノ有無ニ付テ之ヲ試驗ヲ爲スハ誰カ其愚ヲ笑ハサル者アランヤ是ニ於テカ歐洲各國ノ法律ハ大抵皆第一ノ主義ヲ捨テ第二ノ主義ヲ採ルモノナリ即チ一定ノ各時期ニ就テ法律上豫メ一定ノ年齢ヲ定メ或年齢ヨリ或年齢マテハ辨別力ノ缺乏スル者ト推定シ或年齢ヨリ或年齢マテハ辨別力ノ有無ニ付テ疑アルモノト推定シ或年齢ニ達スレハ辨別力分明スルモノナリト推定スルナリ佛國刑法ニ於テハ辨別力ノ缺乏者ニ對シテハ之ヲ推定シタル法律ナリ十六歳未滿ノ未成年者ニ對シテハ悉ク辨別力ノ有無ニ付テ疑アル者トシ原則上例ヘハ滿三歳ノ者罪ヲ犯シテモ亦滿十五歳ノ者罪ヲ犯シテモ皆辨別力ノ有無ニ付テ疑アル者トシテ盡ク之ヲ試驗セサル可カラス佛國刑法第六十六條ニ曰ク「被告人ノ十六歳ニ足ラサル

トキ若シ其是非ノ辨別ナクシテ事ヲ行ヒタルトキハ云々ト由是觀之十六歳未滿ノ者ハ滿一歳ニ至ルマテ宜ク是非ノ辨別ヲ鑑定スルノ必要アルナリ然レトモ實際ニ於テハ二三歳ノ童子ニ對シテ公訴ヲ提起シ裁判所ヲシテ辨別力ノ有無ヲ鑑定セシムルハ其業甚タ儀式ニ流レ迂濶ニ失スルカ故ニ法律以前ニ於テ司法大臣ハ平常檢察官ニ訓令千八百五十五年五月二十六日司法大臣訓令シテ七八歳以下ノ者ニ對シテハ公訴ヲ提起ス可カラスト爲セリ故ニ佛國ニ於テハ八歳以下ノ者ニ對シテ檢察官公訴ヲ提起セサルハ法律ノ明文アルニ非シシテ司法大臣ノ訓令アリテ然ルナリ實ニ佛國刑法第六十六條ハ不完全ノ法律ナリト謂ハサル可カラスイスペインアノ刑法ニ於テハ滿九歳以下ハ絕對的ノ無責任者ト爲シ英國ハ滿七歳以下ヲ以テ無責任者ト爲シ獨逸ハ滿十二歳以下ヲ以テ無責任者ト爲シ瑞西ハ滿十六歳以下ヲ以テ無責任者ト爲シ匈牙利ノ刑法ニ於テモ亦同一ノ規定アリ露亞西ノ刑法ニ於テハ滿七歳以下ノ者ヲ以テ絕對ノ無責任者ト定メタリ日本刑法ハ年齢ノ規則ニ付テハ大ニ佛蘭西刑法ノ弊害ヲ鑑ミ斷然之ニ倣フコトヲ止メ十六歳以下ニ於テ辨別力ノ缺損ノ時期ト辨別力ノ

疑ノ時期トテ區別シ十二歳ニ充タサル者ノ罪ハ其罪ヲ論セスト爲。十二歳以下十六歳未滿ノ者ニ對シテハ辨別力ノ有無ヲ審定ス可キモノナリトノ規定ヲ設ケタリ(第七九條第八〇條)故ニ日本刑法ニ依レハ十二歳未滿ノ者ニ對シテハ縱令其人ノ智識ノ發育大ニ増進スル所アリテ是非ノ辨別力ヲ推定スルニ足ル可キモノナリト認ムル場合ニ於テモ尙ホ且公訴ノ提起ヲ爲スヲ許サス唯十二歳未滿ノ事實ヲ證明スレハ即チ可ナリ之ニ反シ十二歳以上ノ者ニ對シテハ縱令犯人ノ智識ノ發達十分ナラスシテ辨別力ナキ者ナリト認ムル場合ニ於テモ亦辨別力ノ有無ニ付キ之ヲ審判ヲ爲スヲ要スルヲ以テ必ス公訴ノ提起ヲ爲サハル可カラス如何トナレハ辨別心ヲ審判スルノ權ハ檢事ニ屬セシテ裁判所ニ屬スルヲ以テナリ(國令第八百五十五條)蓋シテ十二歳未滿ノ者ニ對シテハ今茲ニ一言ノ注意ヲ要ス可キモノアリ即チ民法ニ於テハ二十歳未滿ヲ以テ無能力者ト爲シ其爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲ス之ニ反シ刑法ニ於テハ滿十二歳未滿ヲ以テ無能力者ト爲シ何等ノ行爲ヲ爲スモ責任ナシトシ民法上ノ責任ト刑法上ノ責任ニ就テ無能力ノ其規定ヲ異ニスルハ抑モ如何ナル理由ニ基ク

カ少シク之ヲ辨明セン(實科書)凡ソ民事上ノ行爲ハ人生相互ノ權利義務ノ關係ニ屬セサルモノナキカ故ニ大抵皆複雜ニシテ又甚タ困難ナルヲ以テ豫メ利害得失ヲ研究シテ其害ヲ去リ利ニ就クノ選擇ヲ行フノ智能ヲ有スルニハ頗ル完全ノ發達ニ至ルノ時期ヲ俟タサル可カラス故ニ滿二十歳ニ達スルニ非サレハ到底此ノ複雜ナル民事行爲ノ利害ノ判斷ヲ爲スノ能力ヲ有セサルモノト推定シ民事上民法上能力ハ滿二十歳以上ニ於テ之ヲ所得スルモノト爲シタリ之ニ反シ刑事ノ行爲ハ行爲其モノニ付テハ頗ル複雜ノモノアリト雖モ犯人ノ責任ヲ定ムルニ付テハ唯其行爲ノ正不正ヲ知ルヲ以テ足レリトシ即チ其行爲ノ是ニ屬スルカ將タ非ニ屬スルカヲ區別スルノ智能アレハ則チ可ナリ人ノ良心ハ人生萬般ノ行爲ノ指導者ニシテ常ニ善ヲ善トシ惡ヲ惡トシ是ヲ是トシ非ヲ非トスルノ裁判權ヲ有スルモノナレハ良心ノ發達ハ實ニ速ニシテ人生カ何物ノ如何ヲ知ル時期ニ於テハ良心既ニ之カ支配ヲ爲スモノナリ是非ノ辨別ハ畢竟良心ノ裁判權ノ結果ニ外ナラズトモハ偶々未ダ智識ノ發達即チ利害得失ノ關係ヲ知ルノ能力ニ至リテハ尙ホ

缺タル所アリト雖モ事物ノ善惡ヲ知ルノ良心ハ固ヨリ既ニ嚴然トシテ其勢力ヲ保タズンハ非ス商法ノ能力ヲ以テ滿十二歳以上ト爲シタルハ蓋シ良心ノ發達ハ他ノ智能ノ發達ニ先ニスルモノナリト爲シタレハナリ  
 十二歳以上十六歳未滿ノ者ハ辨別力ノ有無ニ付テ疑ノ時期中ニ在ルモノナリ即チ此期間ニ於テ犯罪行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ刑法ハ豫メ之ヲ以テ無責任者ナリト推定スルモノニ非ス又責任者ナリトモ推定スルモノニ非サルナリ其責任ト無責任ト區別ヲ定ムルノ權ヲ以テ一ニ之ヲ裁判官ニ放任シタルナリ  
 刑法第八十條ニ「十二歳以上十六歳ニ滿タサル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ云々」ト規定シタルハ則チ此ノ意義ニ外ナラサルナリ  
 抑：是非ヲ辨別スルトハ如何ナル行為ニ於ケル是非ノ辨別ヲ言フカ犯人カ行フ所ノ萬般ノ行為ニ付テ辨別力ノ有無ヲ定メサル可カラサルカ將チ犯人カ行ヒタル犯罪行為ノ上ニ就テ其辨別力ノ審案ヲ爲スラ要スルカ若シ犯人ノ辨別力ハ一般ノ行為ニ於テスルヲ要セストモハ縱令犯人ハ犯罪行為爲シモノニ付テハ其犯人ハ必スシモ無責任者タルヲ得サルナリ即チ犯人ヲシテ無責任者タラ

シムルニ付テハ犯人ハ單ニ其犯罪行為ノ上ニ就テ辨別力ヲ有セサルヲ以テ足レリトセス其他總テノ行為ニ付テモ亦辨別力ナキヲ要スルナリ其結果犯人ハ其犯罪行為ニ於テハ辨別力ヲ有セサルモ他ノ總テノ行為ニ於テ多少ノ辨別力ヲ有スルトキハ無責任者タルヲ得ス何トナレハ刑法カ犯人ヲ以テ無責任者ナリトスルニハ犯人ノ總テノ辨別力ヲ缺キタルヲ要スト爲セハナリ之ニ反シ若シ犯人ノ辨別力ハ唯犯罪行為其モノ、上ニ於テノモ之ヲ必要ナリトスルトキハ縱令他ノ一般行為ニ於テ辨別力ナキモ犯罪上行爲ノ上ニ於テ明カニ辨別力ヲ有スルノ確證ヲ得タルトキハ固ヨリ犯人ノ責任ヲ以テ之ヲ不問ニ付スルノ理由ナシ其結果犯人ハ他ノ一般行為ニ於テ辨別力ヲ有スルモ犯罪行為爲シモノ上ニ於テ辨別力ヲ缺クトキハ當然犯人ノ責ヲ免セサル可カラサルナリ我刑法ハ一般ノ行為ニ於ケル是非ノ辨別力ヲ必要ナリトセシカ刑法第八十條ヲ見ルニ曰ク「罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿タサル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否ト云々」トアリ本條所置其所爲トハ是レ犯人カ行ヒタル犯罪行為ヲ指シタルヤ毫モ疑ヲ容ル、所ナシ若シ一般行為ニ於ケル辨別力ヲ謂フモノナリ

トセハ殊ニ本條ニ於テ其所爲ノ文字ヲ用フルノ用ナシ單ニ十六歲ニ滿タサル者ハ是非ヲ辨別セサルト否ト云々トシテ文理判明スルナリ然ルニ故ラニ其所爲下特書シタルハ是則チ犯人ノ所爲ヲ制限シタルヲ明カニスルニ足レリ要スルニ日本刑法ハ犯罪行爲其モノ上ニ於テノミ是非ノ辨別ヲ必要トセシモナリトノ解釋ヲ下スハ蓋シ穩當ナリト信スルナリ

本論ヲ終ルニ臨ミテ尙ホ一言加フ可キモノアリ即チ第八十條ノ但書是ナリ曰ク但情狀ニ因リ滿二十歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得下本條ニ規定スル懲治場留置ノ處分ハ果シテ如何ナル目的ヲ有スルモノナルヤ本條ノ前段明カニ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス下規定シタル以上ハ其犯人ノ犯罪上ノ責任ヲ免カレタルコト取テ説明ヲ要セサル所ナリ然ルニ後段ノ但書ニ於テ懲治場留置ノ規定アルヲ以テ之ヲ觀レハ是レ留置處分ハ刑法以外別段ノ刑罰ヲ設ケ無罪者ヲ罰スルノ精神ヲ有スルモノニ非サルコトハ火ヲ觀ルヨリモ明カナリ果シテ懲治場留置ハ刑罰ノ性質ヲ有スルモノニ非ストセハ其目的何レニ在リトスルカ凡ソ犯罪ノ由テ起ル原因其數一ナラスト雖モ

少年子弟ノ犯罪ハ多ク家庭ノ教訓其宜シキヲ得サルニ原因セスンハ非ス夫レ少年子弟ハ尙ホ白絲ノ如シ之ヲ養ニ染ムレハ則チ著ト爲リ之ヲ黃ニ染ムレハ則チ黃ト爲リテ常ニ其成長スル所ノ慣習ニ感染スルモノナリ家庭治マラス風儀壞亂シタル家ニ在ル者ハ家ノ惡風自ラ性ヲ爲シ廉恥ヲ勵ムヲ知ラズ名譽ヲ貴フヲ知ラス唯邪慾ノ奴隸ト爲リテ其身ノ快樂ヲ得ンコトヲ求ムルモノナリ若シ一旦此ノ原因ヨリシテ罪ヲ犯シ是非ノ辨別ナキヲ以テ其實ヲ論セスシテ之ヲ其家ニ放還セハ又再ヒ同一ノ犯罪ヲ行フノ危險ナシトセス社會既ニ其危險ナルヲ知リテ而シテ措テ之ヲ問ハサルトキハ其危害殆ト計ル可カラサルモノアラントス况ヤ親ナク兄弟ナク諸方ニ流遇スル浮浪ノ少年子弟ニ於テオヤ是レ殆ト野犬ト一般ノ人ノ虛ニ乘シテ食物ヲ盜ミ尙ホ得サルトキハ則チ家ニ放火シ人ヲ殺シ毫モ顧ル所ヲ知ラサルナリ危險ノ程度前者ニ比シテ尙ホ一層甚シキヲ加フト謂フ可シ是ニ於テカ刑法ハ一方ニ於テハ辨別力ナキヲ理由トシテ無罪ヲ宣告シ他ノ一方ニ於テハ必要ノ場合ニ限り懲治場ノ留置ヲ命スルノ規定ヲ設ケタルナリ則チ知ル懲治場留置ハ惡慣習ヲ有スル家庭ニ代リテ政府

自ラ悪少年ノ訓陶ニ任シ間接ニ將來ノ悪害ヲ除カントノ手段ヲ採リシニ外ナ  
ラサルナリ故ニ無責任ノ宣告ヲ受ケタル少年ト雖モ若シ其家庭ノ訓陶大ニ少  
年ヲ感化セシムルニ足ル可キモノアリトスルトキハ必スシモ懲治場ノ留置ヲ  
命スルノ必要ナシ是レ刑法カ懲治場留置ヲ命令法ニ出テスシテ許可法ノ文法  
ヲ採リタル所以ナリ

以上論スル所ノ年齢ヨリ生スル無責任ノ理由ハ獨リ重罪輕罪ニノミ之ヲ適用  
スルニ非ス違警罪ニ於テモ亦之ヲ適用スルコトヲ得第八十三條第二項ニ曰ク  
「十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス」下

年齢ノ問題ニ付テハ無責任ノ外向ホ重罪輕罪ニ付テ宥恕ノ規定アリ則チ十二  
歳以上ニシテ辨別アリテ犯シタル者ニ對シテハ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減シ第  
八〇條第二項十六歳以上二十歳未滿ノ者ニ對シテハ其罪ヲ宥恕シテ一等ヲ減  
ス(第八十一條又違警罪ニ付テモ滿十二歳以上十六歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ宥  
恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス(第八十三條第二項)アリ然レトモ是レ宥恕論ニシテ  
全ク責任論ト同一視ス可キモノニ非ス無責任ハ犯罪アリテ全ク其罪ヲ問ハサ

ルニ在リ宥恕ハ其罪ヲ問フテ唯其刑ヲ減スルニ在リ然ルニ今茲ニ論スル所ノ  
問題ハ専ラ無責任ノ場合ニ在ルヲ以テ宥恕ノ問題ニ付テハ深ク之ヲ論スルヲ  
要セザルナリ

### 第三節 權利ノ執行

#### 第一款 總論

凡ソ犯罪行爲ハ法律ノ禁制命令ニ違反スルニ因リテ成立ス故ニ若シ事實ノ形  
態上ヨリ見レハ明カニ犯罪行爲ヲ構成スルモノナリト雖モ法律上付與セラレ  
タル權利又ハ義務ニ因テ以テ此ノ事實ヲ行フニ於テハ決シテ犯罪ヲ構成ス可  
キモノニ非サルナリ之ヲ名ケテ權利ノ執行ト曰フ權利ノ執行ニ屬スヘキ場合  
ニアリ一ハ本屬長官ノ命ニ出テタル場合二ハ正當防衛ニ出テタル場合即チ是  
ナリ

今本論ニ入ルニ先チテ一ノ注意ヲ爲ス可キモノアリ  
注意 權利ノ執行ニ出テタル場合ト被害者ノ承諾ニ出テタル場合ハ決シテ之  
ヲ混同ス可カラズ或場合ニ於テ人ハ豫メ犯罪ノ危害ヲ受タルコトヲ承諾スル

ヲ得ルアリ此場合ニ於テ犯人ノ所爲ハ決シテ犯罪行爲ヲ構成スルモノニ非  
 サルナリ凡ソ犯罪ヲ構成スルニハ其犯罪行爲ハ必ズ被害者ノ意思ニ反シテ  
 之ヲ行フヲ以テ原則ナリトス被害者ノ意思ニ反スルハ則チ是レ被害者ノ權利  
 ヲ侵害シタルノ確證ナレハナリ故ニ被害者ニシテ其權利ノ侵害ヲ甘ンセンカ  
 是レ自ラ其權利ヲ拋棄シタルヲ以テ刑法獨リ自ラ進ミテ尙ホ之カ保護ヲ爲ス  
 ノ必要ナキヤ明カナリ例ヘハ竊盜罪ハ所有者ノ承諾ヲ經ズシテ其所有物ヲ占  
 有スルニ在リ故ニ若シ豫メ其人ノ承諾アランカ人ノ所有物ヲ占有スト雖モ決  
 シテ犯罪ヲ構成スルノ理ナシ姦淫罪ニ於テモ亦然リ姦淫罪ハ承諾ナクシテ婦  
 女ヲ姦スルニ因リテ成立ス故ニ若シ婦女ニシテ姦淫ヲ甘ンセンカ決シテ姦淫  
 罪ヲ構成ス可キモノニ非サルナリ所謂姦淫トハ十二歳未満ノ者ニ對シテハ暴  
 力ナキ姦淫十二歳以上ノ婦女ニ對シテハ暴力ヲ以テ姦淫シタル場合ヲ包含ス  
 殊ニ注意ス可キハ姦淫罪ニ於テハ必ズモ犯罪以前ニ於テ被害者ノ承諾ヲ得  
 ルヲ要セス姦淫後ニ至テモ其承諾ヲ得レハ即チ可ナリ刑法ハ姦淫罪ヲ以テ告  
 訴ヲ待テテ而シテ後ニ其罪ヲ論スト爲シタルヲ以テ姦淫事後ノ承諾ニ因リテ告

訴ヲ爲サ、ルトキハ到底犯罪ヲ構成ス可キモノニ非サレハナリ

問題 被害者ノ承諾ハ如何ナル場合ニ於テモ犯罪ヲ消滅セシムルノ効力ヲ

有スヘキヤ之ヲ換言スレハ本問題ヲ區別シテ二問題ト爲スコトヲ得(一)人  
 ハ如何ナル程度ニ至ルマテ自己ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得ルヤ(二)人ハ如  
 何ナル程度ニ至ルマテ他人ニ對シ我ヲ害スルノ權利ヲ與フルコトヲ得ル  
 ヤ

(イ) 凡ソ人ノ權利ハ自己獨有ノモノナレハ猶ホ自己ノ所有物ニ於ケルカ如ク  
 自由ニ之カ處分ヲ爲スヲ得可キカ如シ然レトモ自己ノ所有物ヲ處分スルニ付  
 テハ法律上ノ制限アリテ決シテ其範圍ヲ越ユルコトヲ得ス權利ノ處分ニ付テ  
 モ亦法律ノ制限以內ニ於テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス今法律ハ如何  
 ナル制限ヲ設ケタルヤ法律ノ制限ニ二アリ(一)自己ノ權利ヲ拋棄スルニ付テハ  
 必ズ他人ノ權利ヲ侵害セサルヲ要ス(二)社會ノ公益ヲ侵害セサルヲ要ス法律ニ  
 於テ明カニ二ケノ制限ヲ設ケタルトキハ則チ毫末モ疑ヲ容ル、所ナシト雖モ  
 若シ法律ニ於テ明カニ之カ制限ヲ設ケサルトキハ如何ナル標準ニ依リテ以テ

人ノ權利ノ侵害ト社會ノ公益ノ侵害トヲ知ルコトヲ得ルカ例ヘハ親ハ其子ニ對シテ親權ヲ行フ者ナリ親權ハ親カ其子ヲ養育教育スルノ義務ヲ盡スカ爲メニ設ケタル所ノモノナリ親ハ果シテ親權ヲ拋棄スルコトヲ得ルヤ如斯場合ニ於テ若シ親權ノ拋棄ヲ許ストキハ是レ恰モ其子ニ對シテ養育教育ノ義務ヲ免除スルニ等シキカ故ニ此親權ノ拋棄ハ實ニ其子ノ權利ヲ害スルモノ大ナリト謂ハサル可カラス左レハ法律ニ於テ明カニ親權ノ拋棄ヲ禁スルノ明文ナシトスルモ承諾上親權ノ拋棄ヲ許ス可カラサルヤ明カナリ又親權ノ拋棄カ社會ノ公益ヲ害スル場合ニ於テモ亦同シ例ヘハ日本男子ハ滿二十歳以上ニ達スレハ兵役ニ就クノ義務アリ是レ國家ノ方ヨリ觀察スレハ一ノ義務ナリト謂フト雖モ人民ノ方ヨリ觀察スルトキハ則チ兵役ハ國ヲ防衛スル權利ノ執行ニ外ナラサルヲ以テ權利ナリト謂フコトヲ得ヘシ若シ何人モ自由ニ此ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ許サハ則チ國家ノ防衛權ヲ害スル甚クシテ而シテ社會ノ公益終ニ維持ス可カラサルニ至ル故ニ兵役ニ就ク權利ハ何人モ自由ニ之ヲ拋棄スルコトヲ許サ、ルナリ若シ夫レ手足ヲ毀損シ其他詐欺ノ方法ヲ以テ兵役ヲ免カル

、ノ行爲ヲ行フ者ニ至リテハ是レ徵兵令ノ明カニ罰スル所ナルヲ以テ深ク之ヲ論スルノ必要ナシ又例ヘハ人ハ自由ニ自殺スルノ權利ヲ有ス故ニ何人モ其權利ヲ行フカ爲メニ他人ニ囑託シテ我身ノ自殺ヲ行フコトヲ得可シ然レトモ刑法ハ人民相互ノ約束ニ於テ生命ノ拋棄ヲ爲ストキハ社會ノ風俗ヲ害シ隨テ公益ヲ紊スノ恐れアルカ故ニ約束上生命ヲ奪フノ權利ヲ與フルヲ許サ、ルナリ刑法第三百二十條ハ則チ之カ爲メニ設ケタル規則ニ外ナラス

(五) 人ハ自己ヲ毆打創傷スルコトヲ承諾スルノ權利アルヤ若シ何人モ自己ヲ毆打創傷スルノ權利アリトセハ果シテ如何ナル程度ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ之ヲ換言スレハ承諾ノ如何ナル程度ニ至ルマテ犯罪ヲ構成セサルヤ此問題ニ付テハ宜シク業務又ハ慣習ニ屬スル場合ト其然ラサル場合トヲ區別セサル可カラス若シ業務上毆打創傷ヲ必要ナリトスルトキニハ其業務ノ區域内ニ於テ加害ノ承諾ヲ爲スヲ得ヘシ若シ其區域ヲ脱スルトキハ則チ忽チニシテ刑法ノ毆打創傷罪ヲ構成スルニ至ル例ヘハ擊劍家ノ如ク角力ノ如ク又ハ外科醫ノ如キハ互ニ毆打スルコトヲ承諾シ或ハ身體手足ヲ切斷スルコトヲ承諾スル

モ固ト是レ業務ノ結果ニ屬スルカ故ニ決シテ犯罪ヲ構成ス可キモノニ非サルナリ鑿劍ハ體操ニ屬シ角力ハ快樂ニ屬シ醫術ハ衛生ニ屬スルモノニシテ社會ノ公益ヲ維持スルニ付テ其ニ必要ナリトスル所ノモノナリトス若シ鑿劍家ニシテ真劍ノ勝負ヲ爲シ力士ニシテ生命ノ交換ヲ爲シ醫者ニシテ患者ノ首ヲ斷ツアラハ是レ其業務ノ區域ヲ超ユルヲ以テ刑法ノ制裁ヲ受ク可キヤ論ヲ俟タス慣習ノ場合ニ於テハ其例ヲ舉クルコト甚タ困難ナリ例ヘハ親カ其子ヲ教育スルニ當リテ懲戒ノ方法トシテ往々其子ヲ毆打スルコトアリ毆打ハ固ヨリ違警罪ノ罰スル所ナルヲ以テ親カ子ニ對スル場合ト場合ト雖モ決シテ之ヲ恕ス可キニ非ス然レトモ子ノ行爲ヲ懲戒セント欲シテ之ヲ行フハ慣習上默許スル所ノモノナルヲ以テ苟モ親ノ意思懲戒ヲ加フルニ止マルトキハ之ヲ以テ犯罪ナリト看做ス可カラス若シ懲戒ノ程度ヲ超ユ殊ニ其子ヲ惡ミテ毆打ヲ爲ストキハ是レ固ヨリ許ス可キノ行爲ニ非サルナリ

### 第二款 職務執行

刑法第七十六條ニ曰ク本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタルモノハ其

位ヲ傳フルコトハ條理ニ適シタルモノナリト思惟ス固ヨリ皇位繼承ト相續トハ法律上ノ性質ヲ異ニスルモノナリト雖モ一定ノ血族者ノ順序ニ從フヲ繼承ヲ爲スコトヲ得トスル所ノ立法上ノ精神ニ至リテハ異ナルコトナシ且我國ノ歷史上ニ於テモ懷胎ノ皇子アレハ攝政ヲ置キタル例アリ若シ皇室典範ニ於テ之ヲ禁スル趣意ナリトセハ明カニ之ヲ規定シタル管ナリ然ルニ今之ヲ明言セサルニ由リテ觀レハ即チ懷胎ノ皇子モ亦繼承權ヲ有スル者ト解セサルヘカラスト信ス或ハ此場合ニハ懷胎ノ皇子ノ有無ニ拘ハラズ繼承權ヲ有スル者ハ直チニ天皇ト爲ルコトヲ得但其懷胎ノ皇子カ男子トシテ出生シタルトキハ其天皇ハ位ヲ退カサルヘカラスト云フ者アリ此說ニ從フトキハ懷胎ノ皇子カ死體ニテ出生シタル場合又ハ皇女子トシテ出生シタルトキハ何等ノ差支ヲ生セス然レトモ懷胎ノ皇子カ皇男子トシテ出生シタルトキハ一タヒ天皇ト爲リタル者ヲシテ其位ヲ退カシムルニ至ルモノナリ即チ天皇ノ位ヲ自由ニ變動セシムルノ結果ヲ生スルニ至ル是レ君主國ノ原則ニ反スルモノト謂ハサルヘカラスト之ニ反シテ天皇崩御シタルトキニ懷胎ノ皇子アレハ繼承權ヲ有スル者ハ先ツ



其懐胎皇子ニ避ケテ直チニ天皇ノ位ニ即カスシテ其懐胎ノ皇子カ死體ニテ出生シ又ハ皇女子トシテ出生シタルトキニ於テ始メテ天皇ノ位ニ即クコト、スルハ前説ノ如ク君主國ノ原則ニ反スルニ至ルノ恐ナシト雖モ此場合ニハ懐胎皇子ノ出生スルマテハ眞ノ天皇ハ存在セサルカ故ニ此間ハ天皇ノ位ヲ曠シウシタルモノト謂ハサルヘカラス

### 第十九節 皇位ノ喪失

我國ニ於テハ皇位喪失ノ場合ハ天皇崩御ノ一事ニ限ル外國ニ於テハ讓位ノ場合アリト雖モ我國ニ於テハ讓位ヲ認メス皇室典範第十條ニ天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ云々トアリ皇嗣ノ踐祚スルハ唯天皇崩御ノ場合ノミナルカ故ニ崩御以外ニ於テハ皇嗣ノ踐祚スヘキ場合ナシ故ニ天皇ハ讓位スルコトヲ得サルヲ知り得ヘシ天皇ノ位ハ終身ノモノナリ其他天皇ハ決シテ廢セラレハコトナシ天皇ヨリ高キ權力ヲ有スル者ナキカ故ニ國法上ニ於テハ廢皇ト云フコトヲ生セサルナリ

### 第一章 攝政

#### 第二十節 攝政ノ地位

皇位繼承法ニ依リテ天皇ノ位ヲ踐ム者ハ常ニ存在スルコトヲ得ルモ若シ天皇未成年ナルカ又ハ故障ノ爲メニ大政ヲ親裁スルコト能ハサルトキハ亦之ヲ補フ方法存在セサレハ國家作用ノ實際ノ執行ハ或ハ中斷セラレ或ハ不完全ナルニ至ル是ニ於テ攝政ナル機關ヲ設ク攝政ハ如何ナル地位ヲ有スルヤニ付テ或學者ハ攝政ハ一種不完全ナル皇位繼承者ナリト云ヒ又或學者ハ攝政ハ一時ノ國家元首ナリト云ヘリ此等ノ説明ハ能ク攝政ノ實質ノ狀態ヲ形容ナンタルモノナリト雖モ法律上ニ於テハ完全ノ説明ト謂フコトヲ得ス攝政ヲ置ク場合ハ決シテ天皇ノ位ヲ空シウシタル時ニアラス故ニ皇位繼承ノ一種類ト謂フコトヲ得ス又國家ノ元首トシテハ天皇既ニ存在スルカ故ニ一時ノ元首ト云フモ其當ヲ得タルモノニアラス憲法第十七條第二項ニ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フトアリ是レ即チ攝政ノ地位ヲ明カニシタル規定ナリ即チ攝政ハ天皇ニ代リテ國家ノ作用ヲ統轄スル機關ナリ即チ憲法上天皇ノ代表者ナリ代表者ト云ヘハ其意思カ憲法上直接ニ天皇ノ意思トシテ効力ヲ有スルコトヲ謂フ代表者

ノ意思ハ直接ニ被代表者其者ノ意思ナリ攝政ハ意思無能力ナル天皇ヲ代表スル者ナリ攝政ノ發表シタル意思ハ憲法上當然天皇ノ意思ナリ故ニ攝政ハ天皇ヲ代表スル機關ト謂フコトヲ得未ダ公法ノ發達セサル時ニ當リテハ國家ニ關スルコトモ多クハ私法ニ依リテ説明シタルカ故ニ攝政ノ如キモ全ク後見人ト同一ノ者ト看做サレタリ然レトモ攝政ハ決シテ被後見人ノ爲メニ設ケラレタハ後見人ニアラス國家ノ爲メニ設ケラレタル機關ナリ我皇室典範ニ於テモ明カニ之ヲ區別シテ未成年ノ天皇ノ保育ヲ掌ラシムル爲メニハ別ニ大傳ヲ設ケ攝政ハ天皇ノ私事ニ關スル者ニアラス專ラ國家ノ政務ヲ行フ者ナリ攝政ハ天皇若クハ其他ノ機關ノ任命ニ由リテ生スル者ニアラス憲法ト皇室典範ニ依リテ一定ノ事情ノ生スルニ於テハ直接ニ其位ヲ踐ムコトヲ得即チ一定ノ事情ノ到來スレハ天皇ノ意思ニ關セズ當然大權ヲ行フコトヲ得ルモノトス故ニ攝政ハ國家ノ直接機關ナリ攝政ハ天皇ニ代リテ大權ヲ行フ者ナルカ故ニ苟モ天皇ニ屬スル權限ハ悉ク之ヲ行ヒ得ルヲ以テ原則トス且天皇ト同一ノ形式ヲ以テ大權ヲ行フコトヲ得又其効力モ天皇ノ行ヒタルモノト毫モ異ナルコ

トナシ唯我憲法第七十五條ニハ攝政ノ在ル間ハ憲法及ヒ皇室典範ヲ變更スルコトヲ得サルノ規定アリ是丈ハ攝政ノ權限ヲ制限シタルモノナリ攝政ハ天皇ノ大權ヲ攝行スル者ナルカ故ニ天皇ノ一個人ニ附着スル權利例ヘハ榮譽權財產權ノ主格ト爲ルコトナシ攝政ノ一個人ノ有スル權利ハ唯其攝政者タル地位ヲ承認セシムル請求權及ヒ皇族トシテ有スル一定ノ榮譽權ノミナリ唯茲ニ疑アルハ攝政ハ天皇ノ如ク神聖保持ノ特權ヲ有スルヤ否ヤノ一點ナリ即チ神聖ニシテ侵スヘカラストハ唯天皇ニノミ適用スヘキコトナルカ攝政ハ此特權ヲ受クルコトヲ得サルヤニ付キ多少ノ疑アリ然レトモ攝政カ此特權ヲ有スルハ諸學者ノ間ニハ多ク異論ナキ所ナリ但何故ニ攝政ハ此特權ヲ有スルリ即チ懲戒權モ司法權モ總テ之ヲ統轄スル者ニシテ國家ハ攝政ノ上ニ立ツ所ノ機關ヲ有セス故ニ攝政タル間ハ之ニ責任ヲ負ハシムル方法ナキニ由ルト然レトモ神聖保持ノ特權ハ攝政カ國家機關トシテ有スル所ノ大權ニアラスシテ攝政ノ地位ニ當レル一個人ニ附着スル特權ナリ故ニ大權ノ一部分タル懲戒權

司法權ハ攝政之ヲ行フカ故ニ攝政ハ自ら其責任ヲ問フコトヲ得スト云フ理由ニ據ルトノ説ヲ立ツルコトヲ得ス若シ此ノ如ク謂フトキハ攝政ノ一個人ニ關スル私法上ノ争モ司法裁判所ニ於テ裁判スルコトヲ得スト謂ハサルヘカラス蓋シ攝政カ此特權ヲ有スル所以ハ攝政ハ天皇ニ代リテ統治權ノ總攬ヲ爲ス者ナルカ故ニ此特權ヲ有セサレハ其尊嚴ヲ保チ且自由ニ其行爲ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テナリ天皇ニ代リテ大權ヲ行フ者ナルニ拘ハラス例ヘハ刑事上ノ責任ヲ負ハサルヘカラストセハ或ハ拘留ニ處セラレ或ハ禁錮ニ處セラルハニ至ル然ルトキハ攝政ハ自由ニ大權ヲ行フコトヲ得ス且其尊嚴ヲ保ツコトヲ得サルニ至ル故ニ攝政モ天皇ト同一ノ神聖保持ノ特權ヲ有スルコトヲ得ト謂フコトヲ得ヘシト信ス攝政カ在位ノ間ニ於テ無責任ナリト云フコトハ諸學者間異論ナキ所ナリ然ルニ或學者例ヘハ「ザイデル」「マイエル」ノ如キハ攝政カ其在位ノ間ニ行ヒタル刑法上ノ犯罪ニ付テハ攝政終了後ニ至リテ刑罰ヲ受ケサルヘカラハト論セリ然レトモ攝政カ其行爲ヲ爲シタル當時ニ於テ無責任ナル所ノ行爲カ後ニ至リテ有責任ト變スルノ理ナシ故ニ攝政在位中ノ行爲ハ總テ無責

任ナリト謂ハサルヘカラスト信ス

## 第二十一節 攝政ノ生スヘキ場合

攝政ノ在位ノ間ハ天皇ヲシテ大權ヲ行使セシメスト云フ制限ヲ加フルモノナルカ故ニ其場合ヲ精密ニ確定スルコト必要ナリ皇室典範第十九條ニ依レハ攝政ノ生スヘキ場合ハ天皇ノ未タ成年ニ達セサルトキ及ヒ天皇久キニ亘ル故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキナリ皇室典範第十三條ニ依レハ天皇ハ滿十八年ヲ以テ成年ト爲ス故ニ天皇若シ十八年未滿ニシテ位ヲ踐ムトキハ攝政ノ順位ニ當ル者ハ直接ニ攝政ト爲リテ大權ヲ行フモノトス天皇ノ未成年ナル場合ニハ攝政ハ當然其位ニ即タコトヲ得ルモ天皇カ久キニ亘ル故障ノ爲メニ大政ヲ親ラスルコト能ハサル場合ニハ攝政ハ直チニ其位ニ即タコトヲ得ス皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議決ヲ竣タサルヘカラス此議決ハ攝政ヲ置クヘキ場合ノ到來スルヤ否ヤヲ決定スルモノニシテ攝政ヲ任命スルモノニアラス攝政ハ攝政ヲ置クヘキ場合ノ存在スト云フ議決アレハ直チニ攝政ト爲ルコトヲ得ルモノトス大政ヲ親ラスル能ハサル故障トハ事實上無能力ナル場合ヲ云ヒ任

意ノ故障ヲ云フニアラス能ハス下ハ爲サント欲スルモ爲シ能ハサルヲ謂フモ  
ノナリ又大政親裁ノ無能トハ意思能力ノ一部分ノ缺乏ヲ謂フニアラス絶對ニ  
無能ナルヲ謂フモノナリ即チ親裁ニ必要ナル意思行爲ヲ獨立シテ爲シ得ヘキ  
能力ヲ全然缺乏セルヲ謂フザイテル氏ハ大政ノ親裁トハ精神的作用ニシテ肉  
體的作用ニアラサルカ故ニ精神病ハ親裁無能ノ原因ト爲ルモ身體上ノ疾病  
ハ決シテ直接ニ親裁無能ノ原因ト爲ルコトナシ即チ能力力薄弱ト爲ルコトア  
ルモ絶對ノ無能ト爲ルコトナシト云ヘリ然レトモ身體上ノ疾病ナルモ親裁無  
能ト爲ルコトアリ例ヘハ精神健全ナルモ意思發表ノ機關カ全ク其自由ヲ失フ  
コトアリ其他外力ニ因リテ自由ノ動作ヲ妨礙セラル、場合アリ故ニ唯精神ノ  
無能ナル場合ノミナラス意思發表ノ無能ナル場合ヲモ之ヲ包含スルモノトス  
而シテ此無能ハ久シキニ亘ルモノナラサルヘカラス如何ナル程度ヲ以テ久シ  
キニ亘ルモノト爲スカ之ヲ定ムルコトハ稍困難ナリ然レトモ其故障ノ久久ナ  
ル場合及ヒ其故障ノ存在スル時期ヲ豫見スルコトヲ得ルモ其時期ノ永續スル  
場合ハ久キニ亘ル故障ト謂フコトヲ得ヘシ此場合ニ皇族會議、樞密顧問ノ議決

ハ天皇ノ諮詢ヲ埃テ之ヲ爲スモノニアラス皇族樞密顧問ハ自ら進ミテ會議議  
決セサルヘカラス何トナレハ此場合ニハ天皇ハ諮詢スル能力全ク無キ時ナル  
ヲ以テナリ或學者ハ此久キニ亘ルト云フコトヲ解シテ是レ時ノ長短ヲ言ヘル  
モノニアラス故障ノ程度ヲ言ヘルモノナリ久キニ亘ル故障トハ大政ヲ親裁ス  
ルコトヲ得サル絶對的ノ故障ヲ言ヘルモノニシテ時日ノ長短ニハ毫モ關係セ  
スト云ヘリ然レトモ大政ヲ親ラスル能ハサル故障ト云ヘハ已ニ絶對ノ故障ナ  
リ少シニテモ親ラスルコトヲ得ル故障ナルニ於テハ能ハサル故障アリト謂フ  
コトヲ得ス已ニ故障カ絶對ノ無能タルヘキモノナリトセハ其上ニ復久キニ亘  
ルト云フコトヲ絶對ト云フコトナリト解スルコトヲ得ス若シ此ノ如ク解釋セ  
ハ絶對ノコトヲ再言シタルモノト謂ハサルヘカラス且久キニ亘ル故障ハ單ニ  
絶對ノ故障ノミナリトセハ例ヘハ一時ノ病氣ノ爲メニ人事ヲ辨セサルカ如キ  
場合ニ於テモ亦絶對ノ意思不能ト云フコトヲ得ルカ故ニ斯ル場合ニモ常ニ攝  
政ヲ置カサルヘカラスルニ至ル且皇室典範ニ明カニ久キニ亘ル下規定セル以  
上ハ之ヲ全ク意味ナキモノトスルコトヲ得ス固ヨリ久キニ亘ル故障下ハ如何

ナル要素ヲ具備セサルヘカラサルヤ之ヲ確定スルコトヲ得ス隨テ當局者ノ意見ニ因リテ多少其程度ヲ異ニスルコトアルヘシト雖モ然レトモ現在ノ人間ノ觀念ノ上ニ於テ亘久ト云フコト、短期ト云フコト、ハ多少之ヲ區別シ得ルコトハ明カナリ故ニ皇室典範ニ於テモ普通ノ觀念ニ據リテ此區別ヲ爲シ得ルコト云フコトヲ前提トシテ規定シタルモノト看サルヘカラス

### 第二十二節 攝政ノ資格及ヒ順序

#### 第二十三節 攝政ノ終了

此二節ハ皇室典範ヲ一讀スレハ明瞭ナルカ故ニ今之ヲ省略スヘシ

### 第三章 帝國議會

#### 第二十四節 帝國議會ノ法律上ノ地位

帝國議會ノ地位ニ付テ大凡三說アリ第一說ニ據レハ議會ノ議員ハ人民ノ代理人ナリ議會ハ此人民ノ代理人ノ命令ナリト云フニ在リ故ニ議會ノコトヲ人民代議會ト曰ヘリ此說ハ沿革上ヨリ出タル說ニシテ絶對ニ之ヲ否認スルコトヲ得ス歷史上或時代ニ於テハ適當ナル說ト謂フコトヲ得即チ往時ノ獨逸ノ各邦

ニ疾病證書ヲ偽造スル罪、偽造ノ罪、度量衡ヲ偽造スル罪、身分ヲ詐稱スル罪、公選ノ投票ヲ偽造スル罪ノ九種トス即チ余ハ以下節ヲ分チテ之ヲ説明ス可シ

#### 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

本節ハ貨幣ヲ偽造スル罪ト題スルモ其規定スル所ハ單ニ貨幣ヲ偽造スル罪ニ止ラス偽造貨幣ヲ輸入シ取受シ又ハ行使シタル罪等ヲモ之ヲ規定スル故ニ戒學者ノ主張スルカ如ク本節ハ宜シク之ヲ改メテ貨幣ノ偽造變造ニ關スル罪ト題スルヲ可トス

史ヲ案スルニ古ハ何レノ國ニ於テモ貨幣ヲ偽造スル罪ハ特種ノ名稱ノ下ニ於テ極メテ峻酷ナル刑罰ヲ科セリ羅馬ニ於テ之ヲ山野ニ投棄シ猛獸ヲシテ其肉ヲ喰ハシメタルカ如キ一例トス是レ蓋シ一ハ古代ニ在テハ貨幣鑄造ノ權ハ君主ノ大權ノ一部ナリト見做サレタルカ故ニ其之ヲ偽造スルノ所爲ハ君主ノ大權ヲ侵害スルモノニシテ畢竟大逆罪ノ一種ナリト認メラレタルト他ハ當時科學ノ進歩尙ホ未タ幼稚ニシテ其鑄造法甚タ粗笨ナリシヲ以テ容易ニ之ヲ偽造スルコトヲ得タルトニ依ラシ然レトモ近世理財學ノ發達スルニ及ンテヤ貨幣

ヲ鑄造スルノ權ハ君主ノ大權ニ屬セス單ニ國國ノ公益ヲ維持セシカ爲メ政府ノ之ヲ保有スルモノニ過キヌシテ恰モ夫ノ或ル國ニ於テ煙草又ハ火藥等ノ製造又ハ販賣ノ權ヲ特ニ政府ニ保留スルト一般ナリトノ新思想ヲ生シ其刑罰漸ク寛和ニ赴ケリ(牙勞氏刑法論第三卷第六四號)

然ラハ貨幣ヲ偽造シ又ハ變造スルノ罪ハ法理上如何ナル性質ヲ有スルモノナルヤト云フニ我輩ノ見ル所ニ依レハ貨幣ヲ偽造變造スルノ所爲ハ之ヲ其他人ニ於テ財物詐取ノ目的アルト同時ニ(假令其物件ハ幾人ノ手ニ轉々スルモ)常ニ終局ノ受取者即チ財物ヲ與ヘテ之ヲ收受スルト同時ニ其眞貨ニ非サルコトヲ發見シタル者ノミヲ害スルノ所爲タルノ點ヨリ觀察スルトキハ純乎タル詐取取財ニ過キスト雖モ服ヲ轉シテ其所謂詐欺取財ノ行爲ハ性質上公ノ信用ニ依テ流通セラル可キ貨幣ノ上ニ行ハレタルモノニシテ畢竟其受者カ貨幣ハ上ニ置キタル公ノ信用ヲ誤ラセメタル結果遂ニ一般社會公衆ヲシテ貨幣ハ眞僞ヲ疑ハハムルハ結果ヲ生スルモノタルノ點ヨリ觀察スルトキハ公ノ信用ヲ害スルノ所爲タリト云ハサルヘカラス我刑法カ之ヲ公ノ信用ヲ害スル罪ノ一ニ

規定シタルハ蓋シ後段ノ觀察ニ依ルモノトス隨テ其結果トシテ夫ノ或ル學者カ自ラ近世ノ法理ヲ逐フノ徒ナリト主張スルニモ拘ハラズ假令眞貨ト同一ノ價額アル材料ヲ有スル偽造貨幣ヲ製作スルモ尙ホ政府ノ特權ヲ侵スモノナリ若クハ政府カ其鑄造ニ依テ得ヘキ利益ヲ窃取スルモノナルカ故ニ貨幣ノ偽造罪タルヲ失ハスト云フカ如キハ畢竟一方ニ於テ政府カ貨幣ノ鑄造ヲ其特權トシテ一私人ニ委セサルハ利益ヲ得ンカ爲メニ非スシテ貨幣ノ鑄造ニ伴フ可キ詐欺ヲ防遏セシトニ在ルモノタルト他ノ一方ニ於テ財物ヲ詐取スルト信用ヲ害スルトハ其間因果ノ關係アリテ離ル可カラサルモノタルヲ忘却シタルニ職由スルモノニシテ余ハ此ノ如キ所爲ハ財物ヲ欺取スルモノニ非ス隨テ公ノ信用ヲ害スルノ結果ヲ生スルモノニ非サルカ故ニ公ノ信用ヲ害スル罪ノ一トシテ規定セラレタル我現行法ノ規定ノ下ニ於テハ(格段ノ明文ナキ限りハ)決シテ之ヲ罰スルコトヲ得サルモノト確信ス

以上ヲ以テ貨幣偽造罪ノ性質ニ關スル一般ノ説明ヲ了レリ余ハ是ヨリ以下進テ本節ノ規定ニ入り各條規定スル所ノ事項ヲ講說セン

本節規定スル所ハ第百八十二條乃至第百九十三條ヲ包含ス即チ余ハ便宜ノ爲メ之ヲ概括シテ一團トナシ假リニ名ケテ貨幣偽造罪トシ二説ニ分チテ先ツ始メニ其成立要素ヲ次ニ其處分ヲ説明ス可シ

第一款 貨幣偽造罪ノ成立要素

右ニ述ヘタル本節規定スル所ノ犯罪ハ數多ナリト雖モ概括シテ其成立要素ヲ舉クルハ凡ソ左ノ三個トス

第一、内國ニ於テ強制又ハ任意ニ通用スル貨幣ニ係ルコト、第二偽造變造、輸入、收受又ハ行使ノ所爲アルコト、第三犯罪ノ意思アルコト

第一ノ要素 内國ニ於テ強制又ハ任意ニ通用スル貨幣ニ係ルコト  
（一）貨幣ニ係ルコトヲ要ス 貨幣トハ價額交換ノ用ニ供スルカ爲メ法律ノ特ニ制定シタル物件タリ即チ（イ）先ツ第一ニ價額交換ノ用ニ供スルモノタルヲ要ス故ニ夫ノ金銀塊寶石ノ如キモノハ、何程貴重ノ物件タリト雖モ貨幣ニ非ス（ロ）法律ノ特ニ制定シタル物件タルヲ要ス故ニ例ヘハ信用手形ノ如キ假令實際價額交換ノ用ニ供セラル、コトアルモノト雖モ元ト法律カ

正誤

國際公法

一三三頁 第二章第三節ト云フ以下第五章ニ至ルマデ之ニ就ク

憲法

一七七頁 第十節ヲ第十一節ト改メ以下各節之ニ就ク

行政法

八〇頁 第二章ヲ第一節ト改メ 第三章ヲ第一節ト改メ

一四六頁 第四章ヲ第二節ト改メ 第五章ヲ第三節ト改メ

一五七頁 第六章ヲ第四章ト改メ 第七章ヲ第五章ト改メ

一七二頁 第四章ヲ第三節ト改メ 一七四頁 第二章ノ外ニ行政ノ範圍ヲ創設ス

本節規定スル所ハ第八十二條乃至第九十三條ヲ包含ス即チ余ハ便宜ノ爲メ之ヲ概括シテ一團トナシ假リニ名ケテ貨幣偽造罪トシ二說ニ分チテ先ツ始メニ其成立要素ヲ次ニ其處分ヲ説明ス可シ

第一款 貨幣偽造罪ノ成立要素

右ニ述ヘタル本節規定スル所ノ犯罪ハ數多ナリト雖モ概括シテ其成立要素ヲ舉クレハ凡ソ左ノ三個トス

第一、内國ニ於テ強制又ハ任意ニ通用スル貨幣ニ係ルコト、第二偽造、變造、輸入、收受又ハ行使ノ所爲アルコト 第三犯罪ノ意思アルコト

第一ノ要素 内國ニ於テ強制又ハ任意ニ通用スル貨幣ニ係ルコト

(一)貨幣ニ係ルコトヲ要ス 貨幣トハ價額交換ノ用ニ供スルカ爲メ法律ノ特ニ制定シタル物件タリ即チ(イ)先ツ第一ニ價額交換ノ用ニ供スルモノタルヲ要ス、故ニ夫ノ金銀塊、寶石ノ如キモノハ、何程貴重ノ物件タリト雖モ貨幣ニ非ス(ロ)法律ノ特ニ制定シタル物件タルヲ要ス、故ニ例ヘハ信用手形ノ如キ假令實際價額交換ノ用ニ供セラル、コトアルモノト雖モ元ト法律カ

正 誤

國際公法

一三三頁 第二章ヲ第三章ト改メ以下第五章ニ至ルマテ之ニ做フ

憲 法

一七七頁 第十節ヲ第十一節ト改メ以下各節之ニ做フ

行 政 法

八〇頁 第二節ヲ第一節ニ 第三〇章ヲ第一節ニ

一四六頁 第四章ヲ第二節ニ 第五〇章ヲ第三節ニ

一五七頁 第六章ヲ第四章ニ 第七〇頁 第七章ヲ第五章ニ

一七二頁 第四編ヲ第三編ニ改メ 一七四頁 「第一款 外務行政ノ機關ヲ削除ス



○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ罫紙ニ問題ト其疑點トヲ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ  
半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタル質疑ハ回答セズ

亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義録ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘシ  
葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十二年十月十四日印刷  
明治三十二年十月十五日發行

東京市豊谷區四谷仲町三丁目六番地  
編輯者 小田 幹治 郎

東京市芝區四ノ久保明倉町十二番地  
印刷者 金子 鐵五 郎

東京市芝區四ノ久保明倉町十一番地  
印刷所 金子 活版 所

發行所 司法省 **和佛法律學校**

所在 (東京市麴町區富士見  
町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可